



Nortel Communication Server 1000

# IP Softphone 2050

ユーザーガイド





# 改訂履歴

## 2006 年 1 月

標準版 3.00。Nortel Communication Server 1000 4.5 向けに改訂。  
IP Softphone 2050 バージョン 2 の関連部分。

## 2005 年 8 月

標準版 2.00。Nortel Communication Server 1000 4.5 向けに改訂。

## 2005 年 3 月

標準版 1.00。MVC 2050 削除後、最初の発行。



# 目次

<b>IP Softphone 2050 の概要</b>	<b>9</b>
機能	9
コンポーネント	10
<b>IP Softphone 2050 コールコントロール</b>	<b>13</b>
コールコントロール	14
ユーザー補助アクセスインターフェイス	15
コールコントロールの各部名称と機能	16
ホットキー	18
システムトレイアイコンとメニュー	19
<b>IP Softphone 2050 ディレクトリ</b>	<b>20</b>
ローカルディレクトリ	20
CS 1000 ディレクトリ	21
<b>IP Softphone 2050 のインストールとセットアップ</b>	<b>24</b>
システム要件	24
IP Softphone 2050 のインストール	25
USB ヘッドセットキットのインストール	26
<b>ローカルディレクトリの連絡先管理</b>	<b>27</b>
ローカルディレクトリへ連絡先を追加する	27
ローカルディレクトリの連絡先を編集する	28
ローカルディレクトリの連絡先を削除する	29
ローカルディレクトリの連絡先を検索する	29
ローカルディレクトリのフィルタ	30
ローカルディレクトリからダイヤルする	30
ローカルディレクトリのリダイヤルリストからダイヤルする	31
ローカルディレクトリのコーラーリストからダイヤルする	31

ショートカットバーでのグループ管理 .....	32
プロパティダイアログボックスの使用 .....	33
外部ディレクトリへのリンク .....	34
<b>CS 1000 ディレクトリの連絡先管理 .....</b>	<b>39</b>
個人ディレクトリへ連絡先を追加する .....	39
CS 1000 ディレクトリの連絡先を編集する .....	40
CS 1000 ディレクトリの連絡先を削除する .....	41
CS 1000 ディレクトリの連絡先を検索する .....	41
個人ディレクトリからダイヤルする .....	41
リダイヤルリストからダイヤルする .....	42
コーラーリストからダイヤルする .....	42
<b>IP Softphone 2050 のコール管理 .....</b>	<b>43</b>
コールを開始する .....	43
コールに応答する .....	43
コールの保留および再開 .....	44
コールを終了する .....	44
<b>IP Softphone 2050 USB ヘッドセットアダプタ .....</b>	<b>45</b>
概要 .....	45
USB ヘッドセットアダプタでコールに応答する .....	47
USB ヘッドセットアダプタでコールを終了する .....	47
USB ヘッドセットアダプタで音量を調整する .....	47
通話の音を消す ( ミュート機能 ) .....	48
スマート機能メニューの使用 .....	48
スマート機能メニューのカスタマイズ .....	49
スマート機能メニューのカスタム機能 .....	49
<b>IP Softphone 2050 マクロ .....</b>	<b>52</b>
IP Softphone 2050 マクロの概要 .....	52

マクロの入力 .....	52
マクロの削除 .....	53
マクロの実行 .....	53
<b>IP Softphone 2050 メニューコマンド .....</b>	<b>54</b>
コールコントロールのメニューコマンド .....	54
<b>IP Softphone 2050 の設定 .....</b>	<b>57</b>
設定ウィンドウの使用 .....	58
プロフィール .....	59
サーバー .....	61
スキン .....	63
機能 .....	63
マクロ .....	64
オーディオ .....	64
サウンドデバイス .....	65
ハードウェア ID .....	66
オーディオの詳細設定 .....	67
リスナー IP .....	69
サウンド .....	70
ホットキー .....	70
テキストの置換 .....	70
ランプのサウンド .....	71
キータイプ .....	72
バージョン情報 .....	73
言語 .....	73
個人通話記録 .....	73
USB ヘッドセット .....	74

<b>ユーザー補助アクセスインターフェイス</b> .....	<b>78</b>
制御グループ .....	78
ユーザー補助アクセスインターフェイスメニュー .....	79
制御グループおよびメニューコマンドの操作 .....	79
ホットキーの使用 .....	80
<b>CS1000 ディレクトリのユーザープリファレンス設定</b> .....	<b>81</b>
言語の設定 .....	81
日時の設定 .....	82
コールタイマーの有効化 .....	82
通話記録オプションの設定 .....	82
パスワード管理の使用 .....	85
<b>IP Softphone 2050 のトラブルシューティング</b> .....	<b>89</b>
接続の問題 .....	89
オーディオの問題 .....	93
リセット条件 .....	96
USB ヘッドセットの問題 .....	96
ディレクトリの問題 .....	98
<b>索引</b> .....	<b>101</b>



# IP Softphone 2050 の概要

IP Softphone 2050 は、コンピュータで通話するビジネス用電話アプリケーションです。ヘッドセットまたはハンドセットを PC に接続して使用します。電話の発信、受信の制御は、マウスでのクリック、PC のキーボード、または USB オーディオアダプタによって行います。

IP ベースの電話システム用に設計された IP Softphone 2050 は、テレフォニサーバーと Local Area Network (LAN) または Wide Area Network (WAN) を使用して、Voice over IP (VoIP) サービスを提供します。

IP Softphone 2050 をサポートするサーバーに応じて、会議通話、転送、コールフォワードなど、利用できる機能が決定されます。

## 機能

---

IP Softphone 2050 は、次の機能をサポートします。

- ユーザー定義の 12 個の機能キー：プログラム可能な 6 個のライン (DN)/機能キー (ラベル付け可能)、Shift キーを押してアクセスする 6 個のライン/機能キー
- 最大 10 個の機能へアクセスできる 4 個のソフトキー
- 4 行表示ディスプレイ
- ディレクトリは、ローカルの PC に保存、または LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)、Microsoft Outlook、Windows のアドレス帳 (WAB) 連絡先管理ソフトウェアなどの外部ディレクトリにリンク
- CS 1000 リリース 4.0 または 4.5 ソフトウェアを実行するシステムのアプリケーションサーバーに保存される CS 1000 ディレクトリ機能 (個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリスト、パスワード管理)
- 各種ウィンドウおよびアプリケーションからの 1 クリック直接ダイアル
- 5 個の専用固定キー
  - ディレクトリ
  - 受信トレイ (メッセージ)

- シフト (送信トレイ)
- サービス
- 拡張
- 専用のコール処理キー
  - 保留
  - 切断
  - 応答
  - ボリューム
  - ミュート
  - 方向矢印
  - メッセージ待機
- PC のスピーカ、またはヘッドセットから鳴る着信呼び出し音はユーザー側で選択可能
- インターフェイスの種類
  - 1140 スキン
  - コンパクトスキン (ブラックまたはシルバー)
  - 視覚障害を持つユーザー向けのアクセシビリティインターフェイス
- ユーザー定義機能への単一キーアクセスを可能にする、プログラム可能なホットキー
- 対応言語: 英語、フランス語、スウェーデン語、デンマーク語、ドイツ語、ノルウェー語、オランダ語、ポルトガル語、チェコ語、フィンランド語、ハンガリー語、イタリア語、ポーランド語、スペイン語、日本語、ロシア語、ラトビア語、トルコ語
- 3つの入力モード: 数字、英字、ネイティブ
- 長いダイヤルパターンのプログラミングに使用できるマクロ関数

## コンポーネント

---

IP Softphone 2050 は、次の 5 つの主要コンポーネントをサポートします。

- 「コールコントロール」(11 ページ)
- 「ローカルディレクトリウィンドウ」(11 ページ)

- 「設定ウィンドウ」(11 ページ)
- 「システムトレイアイコンとメニュー」(11 ページ)
- 「i2050.exe アプリケーション」(12 ページ)

## コールコントロール

IP Softphone 2050 のコールコントロールには、ラインキー、機能ボタン、コールディスプレイがあります。このコントロールを使用して、通話およびその管理を行います。また、ウィンドウを使用すると、ローカルディレクトリおよび CS 1000 ディレクトリ機能(個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリスト、アプリケーションサーバー管理、パスワード管理)にアクセスすることもできます。

コールコントロールの詳細は、「IP Softphone 2050 コールコントロール」(13 ページ)を参照してください。

## ローカルディレクトリウィンドウ

[ローカルディレクトリ] ウィンドウを使用して、コンピュータに保存される電話ディレクトリを作成、管理、および使用します。また、LDAP、Outlook、WAB などの外部ディレクトリにアクセスします。

ローカルディレクトリの詳細は、「ローカルディレクトリ」(20 ページ)を参照してください。

## 設定ウィンドウ

[設定]ウィンドウ(関連するダイアログボックス)を使用して、IP Softphone 2050 のさまざまな機能を設定します。

[設定] ウィンドウを開く方法は、「IP Softphone 2050 の設定」(57 ページ)を参照してください。

## システムトレイアイコンとメニュー

画面の一番下にある Windows タスクバーの右側の IP Softphone 2050 システムトレイアイコンを右クリックして、通話の実行と管理ができます。

## i2050.exe アプリケーション

i2050.exe アプリケーションを使用して、IP Softphone 2050 とサーバーが通信します。このアプリケーションは IP Softphone 2050 を開始すると起動しますが、バックグラウンドで動作するため起動画面は表示されません。i2050.exe が実行されていることを確認するには、Windows タスク マネージャを開きます。i2050.exe プロセスを表示するには、[タスク マネージャ] ウィンドウの **【プロセス】** を選択します。IP Softphone 2050 アイコンがシステムトレイに表示されていれば、プロセスは表示されます。

# IP Softphone 2050

## コールコントロール

IP Softphone 2050 のコールコントロールには、デスクトップ IP Phone 1140 のデザインに合わせた 1140 スキン、コンパクトスキン (ブラックまたはシルバー) が選べます。IP Softphone 2050 では、視覚障害を持つユーザーのためのアクセシビリティインターフェイスもご利用できます。

IP Softphone 2050 のコールコントロールを開くには、次の手順に従います。

1. デスクトップ PC から、**[スタート]** を選択します。
2. **[プログラム]** を選択します。
3. **[Nortel] > [IP Softphone 2050] > [IP Softphone 2050]** を選択します。

### ユーザー補助アクセスインターフェイス

コールコントロールから IP Softphone 2050 ユーザー補助アクセスインターフェイスを開くには、次の手順に従います。

1. デスクトップ PC から、**[スタート] > [プログラム] > [Nortel] > [IP Softphone 2050] > [IP Softphone 2050]** を選択します。

コールコントロールが表示されます。

2. **[ファイル] > [設定] > [スキン]** を選択します。
3. **[ユーザー補助アクセスインターフェイス]** を選択します。

**注意：** IP Softphone 2050 が実行中の場合、ユーザー補助アクセスインターフェイスの変更を有効にするには、IP Softphone 2050 を終了してから再起動する必要があります。

## コールコントロール

コールコントロール(以下の図 1 および 15 ページの図 2 を参照)には、標準機能として通話機能および通話管理機能があります。

コールコントロールの各部名称および機能については、16 ページの表 1 を参照してください。

図 1: コールコントロール – 1140 スキン

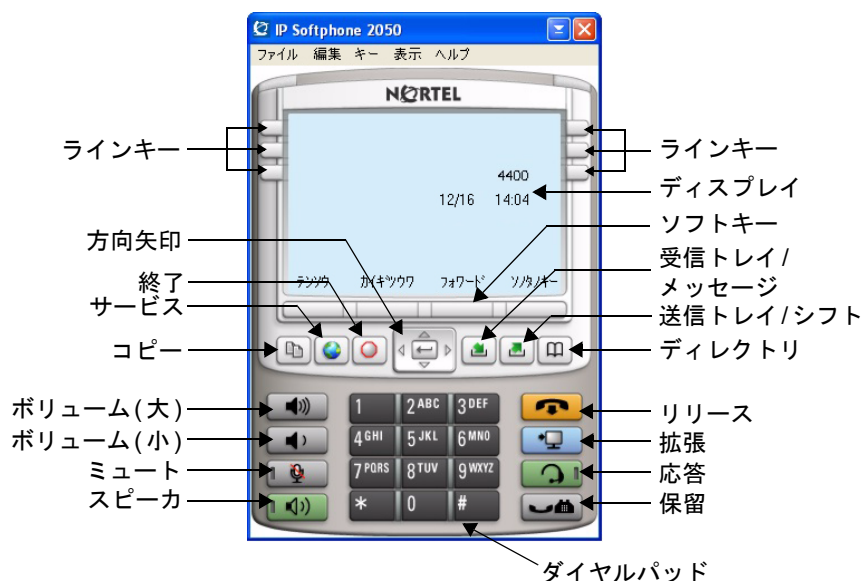
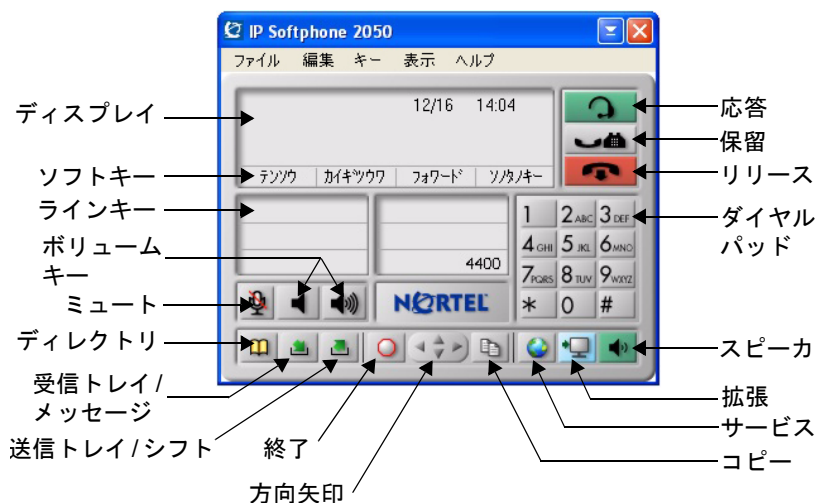


図 2: コールコントロール – コンパクトスキン (シルバー)



## ユーザー補助アクセスインターフェイス

ユーザー補助アクセスインターフェイスは、Freedom Scientific の JAWS® for Windows などの画面読み取りソフトウェアと連動します。このソフトにより視覚に障害のあるユーザーは IP Softphone 2050 のすべての機能にアクセスできます。ユーザー補助アクセスインターフェイスは、JAWS® のバージョン 5.0 でテストされています。画面は、ディスプレイ、ライン/機能、日時、およびインジケータという 4 つの制御グループに分割されます。

ユーザー補助アクセスインターフェイスのメニューコマンドオプションは、コールコントロールの標準オプションと同じです。

ユーザー補助アクセスインターフェイスより制御できる機能およびメニューコマンドオプションの操作の詳細は、「ユーザー補助アクセスインターフェイス」(78 ページ)を参照してください。

## コールコントロールの各部名称と機能

表 1 にコールコントロールの各部名称と機能を示します。

**表 1: IP Softphone 2050 の各部名称と機能(1/3)**



各部名称	機能
プライマリ ディスプレイ	<p>コール情報(コーラー ID など)および特定のソフトキー機能の使用方法を表示します。</p> <p>アイドル状態では、日時のみが表示されます。</p>
ソフトキー	<p>転送(コールを他の人につなぐ)、会議通話(グループでの通話)などのサーバー定義機能にアクセスします。</p> <p>機能を選択するには、ラベルが付いた使用可能な 4 つのソフトキーのいずれかをクリックし、ディスプレイの指示に従います。</p> <p>使用可能なソフトキー機能は、次の状況によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在のタスク：現在のコールアクティビティに応じていつでも使用できる機能。</li> <li>サーバーサポート：Communication Server の設定に応じた IP Softphone 2050 機能。</li> </ul> <p><b>注意：</b>その他の機能を表示するには、<b>[ソノタノキー]</b> ソフトキーをクリックします。</p>
 コピー	CS 1000 ディレクトリ機能から連絡先情報をコピーします。
 終了	ネットワークサービスまたは機能を終了します。



表 1: IP Softphone 2050 の各部名称と機能(2/3)














各部名称	機能
 方向矢印	<p>ディスプレイ領域のメニューまたはリストをスクロールします。</p> <p>メニューを選択して確定するには、ナビゲーションキーの中央にある送信/入力キーを使用します(1140スキンのみ)。</p>
ボリューム  小  大	<p>ヘッドセットのボリュームを増減します。</p>
 ミュート	<p>受信のみを行い、送信はしません。</p> <p>双方向の会話に戻るには、<b>【ミュート】</b> ボタンをもう一度押します。</p> <p><b>【ミュート】</b> ボタンを押すと、ヘッドセットのマイクの音が消えます。</p>
 応答	<p>応答および通話を行います。</p>
 保留	<p>接続中の通話を保留します。</p> <p>保留中のラインの機能キーラベルには、通話の保留を示す点滅アイコンが表示されます。</p> <p>保留中のコールの <b>【ライン】</b> ボタンをクリックして、通話に戻ります。</p>
 リリース	<p>接続中の通話を終了します。</p>
ラインキー	<p>プログラム可能な 6 個の <b>【ライン】</b> キーのいずれかにアクセスします。これらのキーで、ライン、DN、または機能を表すことができます。</p> <p>Communication Server によっては、これらのキーに表示されるラベルがつけられます。</p>
ダイアルパッド	<p>電話番号をダイヤルします。マウスポインタを使用して、入力する番号をクリックします。</p>

表 1: IP Softphone 2050 の各部名称と機能(3/3)

各部名称	機能
 ディレクトリ	CS 1000 ディレクトリ機能にアクセスします。  システム管理者の設定に応じてサービスが異なります。このボタンを使用して、個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリスト機能、またはその他のサーバーベースのディレクトリサービスへアクセスします。  CS 1000 ディレクトリ機能を使用して、通話できます。別のラインを選択しないかぎり、その通話が主要ラインになります。
 サービス	ネットワークサービスのリストにアクセスします。
 拡張	今後使用するために予約されている機能。
 受信トレイ / メッセージ	メッセージにアクセスするか、通話に応答します。
 送信トレイ / シフト	機能キーの表示を切り替えます。
 スピーカ	ハンズフリースピーカを使用して、応答および通話を行います。

## ホットキー

キーボードホットキーを割り当てて、コールコントロールのすべての機能およびメニューオプションにアクセスすることができます。

### ホットキーの追加

新しいホットキーを追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】** ウィンドウを開きます。[設定] ウィンドウを開く方法は、「設定ウィンドウを開く」(57 ページ)を参照してください。
2. **【ホットキー】** を選択します。
3. アクセスする次の機能カテゴリを選択します。ボタン、メニュー、または選択フィールド(ユーザー補助アクセスインターフェイスのみ)。

4. **【項目】** リストから、ホットキーを割り当てる機能を選択します。
5. **【新規ショートカットキーの入力】** で、ホットキーにするキーの組み合わせ、たとえば「Alt + Ctrl + V」などを入力します。
6. **【割り当て】** をクリックします。

**注意：**キーの組み合わせがすでに使用されている場合は、以前に割り当てられた機能が**【現在使用されているショートカット】**テキストボックスに表示されます。

## ホットキーの削除

ホットキーを削除するには、次の手順に従います。

1. **【設定】** ウィンドウを開きます。[設定] ウィンドウを開く方法は、「設定ウィンドウを開く」(57 ページ)を参照してください。
2. **【ホットキー】** を選択します。
3. アクセスする次の機能カテゴリを選択します。**ボタン**、**メニュー**、または**フィールド**(ユーザー補助アクセスインターフェイスのみ)。
4. **【項目】** リストから、ホットキーを削除する機能を選択します。
5. **【削除】** をクリックします。

## システムトレイアイコンとメニュー

IP Softphone 2050 システムトレイアイコンメニューを使用すると、コールコントロールを開かずに、通話およびメッセージを管理できます。

メニューにアクセスするには、Windows タスクバーのシステムトレイにある IP Softphone 2050 アイコンを右クリックします。このメニューからは、通話の応答、通話の管理、マクロおよび機能へのアクセスが可能です。

# IP Softphone 2050 ディレクトリ


IP Softphone 2050 は、連絡先の管理およびアクセスに、次の 2 つのディレクトリを使用します。ローカルのハードドライブに保存されるローカルディレクトリと、サーバーに保存される CS 1000 ディレクトリです。

## ローカルディレクトリ

IP Softphone 2050 ローカルディレクトリを使用すると、電話帳を必要なだけ自分のコンピュータに保存できます。ショートカットバーを使用して、連絡先をショートカットリンクの小さいグループに整理できます。

ローカルディレクトリは、次の目的で使用できます。

- Outlook、Act、LDAP などの外部ディレクトリへリンクする。
- 外部ディレクトリからダイヤルする。
- 連絡先をローカルのコンピュータに保存する。
- 連絡先の多いディレクトリを使用しやすくするためにフィルタする。

**注意：** IP Softphone 2050 ローカルディレクトリとネットワークディレクトリ（ツールバーの  (ディレクトリ) をクリックしてアクセス可能) を混同しないようにしてください。

ウィンドウの左側にあるショートカットバーには、次のようなショートカットリンクのグループがすべて表示されます。

- ローカルディレクトリ – 主要なディレクトリの連絡先
- リダイヤルリスト – 最近実行したコール
- コーラーリスト – 最近受信したコール
- クイックダイヤル – 連絡先へのショートカットを選択するために組み込まれているグループ

## コールコントロールからローカルディレクトリを開く

ローカルディレクトリを開くには、次の手順に従います。

1. **コールコントロール**で、**[表示] > [ローカルディレクトリ]** を選択します。
2. 次のいずれかを選択します。

- ショートカットバーで、**[ディレクトリ]** > **[ローカルディレクトリ]** を選択
- メニューで、**[表示]** > **[ローカルディレクトリ]** を選択

**注意：**以前にアクセスしたローカルディレクトリを開くには、**[ファイル]** > **[最近使ったローカルディレクトリ]** を選択し、開くローカルディレクトリを選びます。

ローカルディレクトリの連絡先管理およびローカルディレクトリからの通話については、「ローカルディレクトリの連絡先管理」(27 ページ)を参照してください。

## CS 1000 ディレクトリ

CS 1000 ディレクトリは、連絡先情報と、アプリケーションサーバーと呼ばれるリモートの集中データベースでのサーバーサポート機能を管理します。CS 1000 ディレクトリは、IP Softphone 2050 のコールコントロールからアクセスでき、次の機能をサポートします。

- 個人ディレクトリ
- リダイヤルリスト
- コーラーリスト

**注意：**リダイヤルリストとコーラーリストは、通話記録機能です。リダイヤルリストとコーラーリストの内容は、コール処理中に生成されます。リダイヤルリストとコーラーリストの個別のエントリまたはディレクトリ全体を削除することはできますが、エントリを追加したり、エントリの内容を永続的に変更したりすることはできません。

### 個人ディレクトリ

独自の個人ディレクトリを管理できます。個人ディレクトリを使用して、最大 100 件のエントリを作成および保存します。各エントリの編集、コピー、削除、またはリスト全体の削除が可能です。エントリを、他のアプリケーションから個人ディレクトリに(または、個人ディレクトリから他のアプリケーションに)コピーすることもできます。

エントリには、次の項目を入力できます。

- 姓 (最大 24 文字)
- 名 (最大 24 文字)
- 勤務先の DN (最大 31 文字)

- 自宅の DN (最大 31 文字)
- 携帯電話(最大 31 文字)
- ポケベル(最大 31 文字)

### コーラーリスト

コーラーリストには、最大 100 件のエントリが含まれます。リストが一杯になると、一番古いエントリが上書きされます。

ディレクトリ表示モードでは、コーラーの氏名がコーラーリストのエントリ数とともに表示されます。コーラーリストのエントリは、通話記録の時刻順に並んでいます。最初に表示されるエントリが、一番新しいエントリです。下向きの方矢印キーを押すと、コーラーリストの新しい項目が表示されます。上向きの方矢印キーを押すと、リストの古い項目が表示されます。

次のリストは、コーラーリストのエントリの内容です。

- 姓(24 文字)
- 名(24 文字)
- DN (31 文字)
- 時刻/日付
- コール数

### リダイヤルリスト

リダイヤルリストには、最大 20 件のエントリが含まれます。リストが一杯になると、一番古いエントリが上書きされます。

ディレクトリ表示モードでは、ダイヤルした番号が表示されます。リダイヤルリストの内容は、ダイヤルすると更新されます。リダイヤルリストのエントリは、通話記録の時刻順に並んでいます。一番古いエントリが、リストの先頭に表示されます。一番古いエントリにアクセスするには、下向きの方矢印キーをクリックします。一番新しいエントリにアクセスするには、上向きの方矢印キーをクリックします。


リダイヤルリストのエントリには、次の項目が含まれます。

- ユーザー名(最大 24 文字)
- DN (最大 31 文字)

- 最後に通話した時刻
- 時刻 / 日付

## CS 1000 ディレクトリ機能を開く

個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、またはコーラーリストを開くには、次の手順に従います。

1. コールコントロールから、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. スクロールして、次のリストから項目を選択します。

— 個人ディレクトリ

— コーラーリスト

— リダイヤルリスト

— パスワード管理

個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、およびコーラーリスト機能には、1 分間のタイムアウト制御時間があります。操作中にアプリケーションが 1 分間使用されなかった場合、ディレクトリ機能は終了し、IP Softphone 2050 はアイドル状態になります。

CS1000 ディレクトリの連絡先管理および CS1000 ディレクトリからの通話については、「CS 1000 ディレクトリの連絡先管理」(39 ページ)を参照してください。

## パスワード管理

パスワード管理の使用と設定の詳細は、「パスワード管理の使用」(85 ページ)を参照してください。

## アプリケーションサーバー管理

アプリケーションサーバー管理機能を使用して、システム管理者は次の作業を行うことができます。

- データベースのバックアップと復元
- ユーザープロファイルの管理

CS 1000 ディレクトリ機能のユーザープリファレンス設定の詳細は、「CS1000 ディレクトリのユーザー プリファレンス設定」(81 ページ)を参照してください。

# IP Softphone 2050 のインストールと セットアップ

## システム要件

---

Nortel IP Softphone 2050 を使用するには、次の要件を満たす必要があります。

- Pentium 互換の CPU (200 MHz 以上)
- Microsoft Windows 2000 の場合、128 MB 以上の RAM
- Windows XP の場合、256 MB 以上の RAM
- 55 MB 以上のハードドライブの空き容量 (全言語)
- 800X600 以上の解像度のモニター (16 ビットカラー)
- Universal Serial Bus (USB) ポート (バージョン 1.1 または 2.0)
- Nortel 拡張 USB アダプタ (デスクトップ) または Nortel モバイル USB アダプタ (モバイル)

## サポート対象オペレーティングシステム

IP Softphone 2050 を使用するには、次のオペレーティングシステムのいずれかが必要です。

- Microsoft Windows XP
- Microsoft Windows XP Professional Service Pack 1
- Microsoft Windows XP Professional Service Pack 2
- Microsoft Windows 2000 Professional
- Microsoft Windows 2000 Professional Service Pack 1
- Microsoft Windows 2000 Professional Service Pack 2
- Microsoft Windows 2000 Professional Service Pack 3
- Microsoft Windows 2000 Professional Service Pack 4



## Nortel USB オーディオキット

USB オーディオキットを使用すると、発呼側と会話できます。IP Softphone 2050 が適切に機能するように、Nortel がサポートする (または互換の) 次の USB オーディオキットのみを使用してください。

- Nortel 拡張 USB アダプタ (デスクトップ)
- Nortel モバイル USB アダプタ (モバイル)
- Algo アナログターミナルアダプタ (互換)

Nortel USB オーディオキットには、次のものが含まれています。

- USB ヘッドセットアダプタ (デスクトップまたはモバイル)
- インストールガイド (日本語)
- USB コード

一部のキットには、ヘッドセットも含まれています。

Algo アナログターミナルアダプタ (ATA) は、ヘッドセットのかわりにアナログターミナルを使用できる USB アダプタです。Algo ATA を使用すると、コードレスのハンドセットを IP Softphone 2050 で使用することができます。

**注意：** IP Softphone 2050 は、Algo ATA と互換性があります。サポートについては、[www.algosolutions.com](http://www.algosolutions.com) (英語) を参照してください。

## IP Softphone 2050 のインストール

『IP Phones: Description, Installation, and Operation (553-3001-368)』(IP Phones に関するオンラインドキュメント (英語)) を参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

## USB ヘッドセットキットのインストール

IP Softphone 2050 は、デスクトップ USB ヘッドセットアダプタおよびモバイルアダプタをサポートします。USB ヘッドセットキットをインストールするには、次の手順に従います。

1. 「Nortel USB オーディオキット」(25 ページ)に記載されているシステム要件を満たしていることを確認します。
2. IP Softphone 2050 を Communication Server に接続できるように、必要に応じてシステム管理者に設定の変更を依頼します。
3. モバイルアダプタを使用するには、ヘッドセットをアダプタに接続します。デスクトップアダプタを使用するには、次の作業を行う必要があります。
  - コイル状の下のコードを、クイックディスコネクトコネクタでヘッドセットコードに接続します(確実に固定します)。
  - ヘッドセットコードをアダプタの RJ9 ジャックに接続します。
4. USB ケーブルを、ヘッドセットアダプタとコンピュータまたは USB ハブにある USB ジャックの 1 つに接続します。

ヘッドセットアダプタを初めて差し込むときは、Windows オペレーティングシステムがデバイスを設定して適切なドライバソフトウェアを見つける間、遅延が発生します。インストールソフトウェアによってオリジナルの Windows CD-ROM が要求された場合、Windows オペレーティングシステムがドライバを見つけられるように CD-ROM を挿入します。

IP Softphone 2050 ソフトウェアのインストールの詳細は、システム管理者に問い合わせてください。

## ローカルディレクトリの連絡先管理


次のオプションを使用して、ローカルディレクトリで連絡先を管理します。

- 「ローカルディレクトリへ連絡先を追加する」(27 ページ)
- 「ローカルディレクトリの連絡先を編集する」(28 ページ)
- 「ローカルディレクトリの連絡先を削除する」(29 ページ)
- 「ローカルディレクトリの連絡先を検索する」(29 ページ)
- 「ローカルディレクトリのフィルタ」(30 ページ)
- 「ローカルディレクトリからダイヤルする」(30 ページ)
- 「ローカルディレクトリのリダイヤルリストから ダイヤルする」(31 ページ)
- 「ローカルディレクトリのコーラーリストから ダイヤルする」(31 ページ)
- 「ショートカットバーでのグループ管理」(32 ページ)
- 「プロパティダイアログボックスの使用」(33 ページ)

### ローカルディレクトリへ連絡先を追加する

ローカルディレクトリリストに連絡先を追加するか、ショートカットバーのショートカットリンクのグループに連絡先を挿入できます。

ローカルディレクトリリストに連絡先を追加するには、次の手順に従います。

1. **ローカルディレクトリ**を開きます。詳細は、「コールコントロールからローカルディレクトリを開く」(20 ページ)を参照してください。
2. **[編集] > [新しい連絡先]**を選択するか、ツールバーの  (**新しい連絡先**) をクリックします。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
3. **[全般]** タブ (デフォルトで表示) で、連絡先の氏名、住所、電話番号などの個人情報を入力します。
4. **[詳細]** タブを選択して、次の連絡先の詳細を入力します。部署、事務所、または秘書の欄を入力します。
5. その他のさまざまな情報を入力するには、**[メモ]** タブを選択します。

6. **[設定]** タブを選択して、**[勤務先]**、**[自宅]**、または **[携帯]** の既定のダイヤル先番号を定義します。
7. **[OK]** をクリックします。

**注意：**プロパティフィールドへの情報の入力の詳細は、「プロパティダイアログボックスの使用」(33 ページ) を参照してください。

グループに連絡先を追加するには、次の手順に従います。


1. ショートカットバーで、連絡先を追加するショートカットリンクのグループを選択します。
2. 追加する連絡先を選択し、ショートカットバーにドラッグして、選択したグループボタンの下にドロップします。

**注意 1:** ローカルディレクトリから、直接外部ディレクトリに連絡先を追加することはできません。

**注意 2:** 外部ディレクトリの内容が変更された場合、その変更をローカルディレクトリに反映させるには、最初に外部ディレクトリを更新する必要があります。更新するには、インポートされたディレクトリを右クリックして、**[更新]**を選択します。

## ローカルディレクトリの連絡先を編集する

ローカルディレクトリの連絡先を編集するには、次の手順に従います。

1. **ローカルディレクトリ**を開きます。詳細は、「コールコントロールからローカルディレクトリを開く」(20 ページ) を参照してください。
2. マウスを使用して、編集する連絡先を強調表示します。
3. 次のいずれかの方法で、**[プロパティ]**を開きます。
  - **[ファイル] > [プロパティ]** を選択
  - ツールバーの  (**プロパティ**) をクリック
  - 選択した連絡先を右クリックして、メニューから **[プロパティ]** を選択
4. 必要なタブを選択して、情報を編集します。
5. **[OK]** をクリックします。


## ローカルディレクトリの連絡先を削除する

連絡先は、ローカルディレクトリから、またはショートカットリンクのグループから削除できます。

ローカルディレクトリから連絡先を削除するには、次の手順に従います。

1. **ローカルディレクトリ**を開きます。詳細は、「コールコントロールからローカルディレクトリを開く」(20 ページ)を参照してください。
2. マウスを使用して、削除する連絡先を選択します。

**注意：**一定範囲の連絡先を削除するには、その範囲の最初の連絡先をクリックし、Shift キーを押しながらその範囲の最後の連絡先をクリックします。範囲全体が強調表示されます。Ctrl キーを押しながらクリックして、別の場所にある複数の連絡先を選択することもできます。

3. 次の方法のいずれかで、連絡先を削除します。
  - **【編集】 > 【削除】** を選択
  - ツールバーの  (**削除**) をクリック
  - 選択した連絡先を右クリックして、メニューから **【削除】** を選択します。
4. 削除を実行する場合は、**【はい】** をクリックします。

ショートカットリンクのグループから連絡先を削除するには

1. **ショートカットバー**で、連絡先を削除するショートカットリンクのグループを選択します。
2. 連絡先を右クリックして、メニューから **【項目の削除】** を選択します。

## ローカルディレクトリの連絡先を検索する

ローカルディレクトリの連絡先を氏名で検索できます。

各ディレクトリで連絡先を検索するには、次の手順に従います。

1. **ローカルディレクトリ**を開きます。詳細は、「コールコントロールからローカルディレクトリを開く」(20 ページ)を参照してください。
2. 次のいずれかを選択またはクリックします。
  - **【編集】 > 【連絡先の検索】** を選択

— ツールバーの  (**連絡先の検索**) をクリック

「連絡先の検索」ウィンドウが表示されます。

3. 検索する連絡先の氏名を入力します。

**注意：**ディレクトリ内の氏名は、**姓、名**の形式で構成されています。この形式で連絡先を検索します。

4. **【検索】** をクリックします。


検索結果が「連絡先の検索」ウィンドウに表示されます。

5. 検索を中止するには、**【中止】** をクリックします。

## ローカルディレクトリのフィルタ

IP Softphone 2050 では、ローカルディレクトリをフィルタして、まとめることができるので、管理が簡単です。この機能は、大規模なディレクトリの処理に有効です。ディレクトリをフィルタすることによって、検索対象の氏数の数を減らすことができます。

ディレクトリをフィルタするには、次の手順に従います。

1. ツールバーの  (**フィルタ**) をクリック、またはメニューから **【ディレクトリ】 > 【フィルタ】** を選択します。


**【フィルタ】** ダイアログボックスが表示されます。

2. **【フィールド】** および **【条件】** リストから、フィルタ条件を選択します。
3. フィルタされたリストの条件値を入力します。たとえば、フィルタ条件 **【フィールド】** に「**姓**」、**【条件】** に「**次で始まる**」を選び、**【値】** に「**山**」を入力した場合、姓が「山」で始まる連絡先のみがローカルディレクトリに表示されます。
4. フィルタを適用するには、**【追加】** をクリックします。

## ローカルディレクトリからダイヤルする

ローカルディレクトリに保存されている連絡先にダイヤルするには、次の手順に従います。

1. **ローカルディレクトリ**を開きます。詳細は、「コールコントロールからローカルディレクトリを開く」(20 ページ)を参照してください。
2. コールする連絡先を検索します。次のオプションを使用してダイヤルできます。

- ダイアルする電話番号をダブルクリックします。
- 連絡先の氏名をダブルクリックします。
- 連絡先のエントリを右クリックし、メニューで目的の電話番号をクリックします。
- 既定の電話番号にダイアルするには、ツールバーの  (ダイアル) をクリックします。
- **[ダイアル]** ツールバーボタンの横の矢印をクリックし、リストから目的の電話番号をクリックします。

## ローカルディレクトリのリダイヤルリストからダイアルする

---

リダイヤルリストからダイアルするには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法で、リダイヤルリストを開きます。
  - [ローカルディレクトリ] ウィンドウのショートカットバーで、**[リダイヤルリスト]** を選択します。
  - **[キー] > [機能] > [リダイヤルリスト]** を選択します。
2. 次のいずれかの方法で、連絡先を検索します。
  - 目的の連絡先までスクロール
  - 名前または番号を指定して連絡先を検索
  - 検索する連絡先の番号を入力
3. 選択したエントリにダイアルするには、連絡先をダブルクリックします。

## ローカルディレクトリのコーラーリストからダイアルする

---

コーラーリストからダイアルするには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法で、コーラーリストを開きます。
  - [ローカルディレクトリ] ウィンドウのショートカットバーで、**[コーラーリスト]** を選択します。
  - **[キー] > [機能] > [コーラーリスト]** を選択します。

2. 次のいずれかの方法で、連絡先を検索します。
  - 目的の連絡先までスクロール
  - 名前または番号を指定して連絡先を検索
  - 検索する連絡先の番号を入力
3. 選択したエントリにダイヤルするには、連絡先をダブルクリックします。

## ショートカットバーでのグループ管理

---

ローカルディレクトリのショートカットバーで、グループの追加、削除、または名前変更を行うことができます。

ショートカットリンクのグループを開き、その連絡先リストを表示するには、ショートカットバーから目的のグループをクリックします。

ローカルディレクトリにグループを追加するには

1. **[ショートカットバー]** の空白の領域を右クリックします。
2. **[新規グループの追加]** を選択します。

ショートカットバーの一番下に、カーソルが点滅した空のグループボタンが表示されます。
3. グループの名前を入力し、**Enter キー**を押します。

ローカルディレクトリのグループを削除するには

1. 目的のグループをクリックして開きます。
2. **[グループ]** ボタンとその連絡先リストまたはその下の領域を右クリックします。
3. **[グループの削除]** を選択します。
4. 「削除します。よろしいですか？」というプロンプトで、**[はい]** をクリックします。

ローカルディレクトリのグループの名前を変更するには

1. 目的のグループをクリックして開きます。
2. **[グループ]** ボタンとその連絡先リストまたはその下の領域を右クリックします。
3. **[グループの名前変更]** を選択します。



[グループ] ボタンにカーソルが表示されます。


4. グループの新しい名前を入力します。
5. **Enter キー**を押します。

**注意：**グループ内の連絡先リストを表示するには、ショートカットバーで目的のグループをクリックします。

## プロパティダイアログボックスの使用

[プロパティ] ダイアログボックスを使用して、連絡先情報を入力または変更します。

[プロパティ] ダイアログボックスを開くには、次の手順に従います。

1. **ローカルディレクトリ**を開きます。詳細は、「コールコントロールからローカルディレクトリを開く」(20 ページ)を参照してください。
2. 次のいずれかを選択します。
  - **[編集] > [新しい連絡先]** を選択
  - ツールバーの  (**新しい連絡先**) をクリック
  - 連絡先を選択
  - **[ファイル] > [プロパティ]** を選択
  - **[プロパティ]** をクリック

[プロパティ] ダイアログボックスには、次の 4 つのタブがあります。

- 「[プロパティ] - [全般] タブ」(34 ページ)
- 「[プロパティ] - [詳細] タブ」(34 ページ)
- 「[プロパティ] - [メモ] タブ」(34 ページ)
- 「[プロパティ] - [設定] タブ」(34 ページ)

4 つのタブすべてに **[エクスポート]** ボタンがあります。このボタンを使用して、連絡先情報を \*.vcf ファイルにエクスポートできます。このファイルは、E メール、連絡先管理アプリケーション、または \*.vcf ファイルフォーマットを使用するその他のソフトウェアアプリケーションにインポートできます。

## [プロパティ] - [全般] タブ

このタブを使用して、連絡先の氏名、住所、E メールアドレス、会社情報、および電話番号を保存します。連絡先レコードを作成するには、連絡先の氏名と、電話番号を少なくとも 1 つ入力します。その他の情報はすべて任意です。

**注意：**ダイヤルパターンに 2 分の 1 秒の遅延を追加するには、電話番号のポーズを発生させる任意の場所にカンマを挿入します。同数のカンマを挿入することによって、ポーズを必要なだけ追加できます。

## [プロパティ] - [詳細] タブ

[詳細] タブを使用して、次の連絡先の内容を入力します。

- 部署
- 事務所
- 秘書

## [プロパティ] - [メモ] タブ

このタブを使用して、連絡先に関するその他のさまざまな情報を記録します。重要な日付、最近の注文、打ち合わせの場所など、電話する際に必要な任意の情報を入力できます。

## [プロパティ] - [設定] タブ

このタブを使用して、連絡先の既定のダイヤル番号を設定します。

**[既定のダイヤル先]**を設定するには、目的のオプションボタン **[勤務先]**、**[自宅]**、または **[携帯]** から選択します。

連絡先の既定以外の電話番号をダイヤルするには、連絡先を右クリックし、メニューに表示されるその他の電話番号を選択します。

## 外部ディレクトリへのリンク

---

[ローカルディレクトリ]ウィンドウからは次の外部ディレクトリにアクセスできます。

- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) ディレクトリ

- Outlook ディレクトリ
- Windows のアドレス帳 (WAB) ディレクトリ

これらの外部ディレクトリにアクセスするには、ショートカットバーで使いたいディレクトリへのリンクを作成する必要があります。ディレクトリを追加すると、ショートカットバーにアイコンが表示されます。そのアイコンをクリックしてディレクトリの連絡先を表示したり、連絡先にダイヤルすることができます。

## LDAP ディレクトリへのリンク

ショートカットバーの LDAP ディレクトリにリンクを追加するには、次の手順に従います。

1. [ローカルディレクトリ] メニューから、**[ディレクトリ] > [リンクの追加] > [LDAP ディレクトリ]** を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。[プロパティ] ダイアログボックスからは、[全般]、[セキュリティ]、[スキーマ] の 3 つのタブにアクセスできます。
2. **[全般]** タブでは、対応するフィールドに次の必要な情報を入力します。
  - **ディレクトリ名** : ショートカットバーに表示させるディレクトリの名前
  - **LDAP パス** : ハードドライブに保存される LDAP ディレクトリのパス
  - **ユーザー名/パスワード** : 必要な場合は、LDAP ユーザー名とパスワードを入力します。
3. **[セキュリティ]** タブでは、次のセキュリティプロトコルを選択します。
  - **セキュリティ認証の使用**
  - **暗号化の使用**
  - **SSL 暗号化の使用**
  - **署名の使用**
  - **シールの使用**
4. **[スキーマ]** タブで、使用する LDAP スキーマを **[スキーマ]** リストから選択して、LDAP の追加、削除、変更を行います。

新しいスキーマをリストに追加するには、次の手順に従います。

1. **[スキーマ]** タブで、**[追加]** をクリックします。

ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスに、LDAP ディレクトリで現在使用している名前とフィールドが一覧表示されます。

2. **[スキーマ名]** フィールドに新しい LDAP スキーマの名前を入力します。
3. **[OK]** をクリックします。

スキーマをリストから削除するには、次の手順に従います。

1. **[スキーマ]** タブで、削除する LDAP スキーマを [スキーマ] リストから選択します。

2. **[削除]** をクリックします。

LDAP ディレクトリダイアログボックスと「スキーマを削除してよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

3. **[はい]** をクリックします。

既存のスキーマを変更するには、次の手順に従います。

1. **[スキーマ]** タブで、変更する LDAP スキーマを [スキーマ] リストから選択します。

ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスに、LDAP ディレクトリで現在使用している名前とフィールドが一覧表示されます。

2. **[スキーマ名]** を変更します。
3. **[OK]** をクリックします。

## Outlook へのリンク

ショートカットバーの Outlook ディレクトリにリンクを追加するには、次の手順に従います。

1. メニューから、**[ディレクトリ] > [リンクの追加] > [Outlook ディレクトリ]** を選択します。

[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

2. **[ディレクトリ名]** フィールドに、ショートカットバーに表示させる Outlook ディレクトリの名前を入力します。
3. **[OK]** をクリックします。

## Windows のアドレス帳 (WAB) ディレクトリへのリンク

ショートカットバーの Windows アドレス帳ディレクトリにリンクを追加するには、次の手順に従います。

1. メニューから、**[ディレクトリ] > [リンクの追加] > [Windows アドレス帳]** を選択します。

[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

2. **[ディレクトリ名]** フィールドに、ショートカットバーに表示させる Windows アドレス帳 ディレクトリの名前を入力します。
3. **[WAB 名]** フィールドに、ショートカットバーからリンクさせる WAB ファイルの名前を入力します。

**注意：** WAB ファイル名がわからない場合は、**[WAB 名]** フィールドの右横にある参照ボタンをクリックします。Windows の **[ファイルを開く]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、ファイルシステムから必要なファイルを探して選択します。

4. **[プロパティ]** ダイアログボックスで、**[OK]** をクリックします。

## ローカルディレクトリへ外部ディレクトリの連絡先を追加する

外部ディレクトリからローカルディレクトリへ連絡先を追加することができます。

ローカルディレクトリへ外部ディレクトリを追加するには、次の手順に従います。

1. ショートカットバーで、使用する外部ディレクトリのアイコンをクリックします。

選択した外部ディレクトリの連絡先一覧が表示されます。

2. ローカルディレクトリに追加する連絡先を右クリックします。
3. メニューから **[ローカルディレクトリに追加]** を選択します。

[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

4. **[電話番号]** フィールドに電話番号が表示されない場合は、最低 1 つの有効な電話番号を入力する必要があります。**[電話番号]** フィールドに表示された電話番号が正しいことを確認して、**[OK]** をクリックします。

連絡先がローカルディレクトリに追加に追加されます。

5. 追加した連絡先にアクセスするには、ショートカットバーのローカルディレクトリアイコンをクリックします。

**注意 1:** ローカルディレクトリから、直接外部ディレクトリに連絡先を追加することはできません。

**注意 2:** 外部ディレクトリの内容が変更された場合、その変更をローカルディレクトリに反映させるには、最初に外部ディレクトリを更新する必要があります。更新するには、インポートされたディレクトリを右クリックして、**[更新]**を選択します。

## CS 1000 ディレクトリの連絡先管理

サーバーでは、個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、およびコーラーリストという CS 1000 ディレクトリ機能がサポートされます。


次のオプションを使用して、CS 1000 ディレクトリ機能で連絡先を管理します。

- 「個人ディレクトリへ連絡先を追加する」(39 ページ)
- 「CS 1000 ディレクトリの連絡先を編集する」(40 ページ)
- 「CS 1000 ディレクトリの連絡先を削除する」(41 ページ)
- 「CS 1000 ディレクトリの連絡先を検索する」(41 ページ)
- 「個人ディレクトリからダイヤルする」(41 ページ)
- 「リダイヤルリストからダイヤルする」(42 ページ)
- 「コーラーリストからダイヤルする」(42 ページ)

### 個人ディレクトリへ連絡先を追加する

---

個人ディレクトリに連絡先を追加するには、次の手順に従います。

1. コールコントロールで、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. **[個人ディレクトリ]** > **[追加]** を選択します。

テキストエディタが起動します。

3. 連絡先情報を入力します。

**注意：**番号にポーズを追加するには、データ入力中に **[ポーズ]** をクリックします。


4. エントリを送信するには、**[完了]** をクリックします。

**注意 1:** ローカルディレクトリとは異なり、CS 1000 ディレクトリ機能(個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリスト)はアプリケーションサーバーに保存されます。

**注意 2:** 企業ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリスト、またはその他の使用可能なディレクトリアプリケーションからエントリをコピーすることによって、連絡先を個人ディレクトリに追加することもできます。個人ディレクトリに複数のエントリを作成する場合、既存のエントリで複数のコピーを作成および編集できます。

## CS 1000 ディレクトリの連絡先を編集する


個人ディレクトリの連絡先を編集するには、次の手順に従います。

1. コールコントロールで、 **(ディレクトリ)** をクリックします。
2. ディレクトリリストから、**[個人ディレクトリ]** を選択します。
3. 目的のエントリを検索します。
4. エントリを強調表示します。
5. **[編集]** をクリックして、変更します。
6. **[完了]** をクリックします。

### 連絡先を一時的に編集する

このオプションを使用して、リダイヤルリストとコーラーリストの連絡先を一時的に編集し、編集したエントリにダイヤルします。この変更は保持されません。


連絡先を一時的に編集するには

1. コールコントロールで、 **(ディレクトリ)** をクリックします。
2. ディレクトリリストから、**リダイヤルリスト** または **コーラーリスト** を選択します。
3. 目的のエントリを検索します。
4. エントリを強調表示します。
5. **[編集]** をクリックして、変更します。
6. 編集したエントリにダイヤルするには、**[ダイヤル]** をクリックします。




## CS 1000 ディレクトリの連絡先を削除する

個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、またはコーラーリストから連絡先を削除するには、次の手順に従います。


1. コールコントロールで、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. **個人ディレクトリ**、**リダイヤルリスト**、または**コーラーリスト**を選択します。
3. エントリを検索します。
4. エントリを強調表示します。
5. **[削除]** をクリックします。
6. **[確認]** または **[キャンセル]** をクリックします。

リダイヤルリストまたはコーラーリスト全体を削除するには、次の手順に従います。

1.  (ディレクトリ) をクリックします。
2. **[リダイヤルリスト]** または **[コーラーリスト]** を選択します。
3. **[削除]** をクリックします。
4. **[はい]** をクリックします。


## CS 1000 ディレクトリの連絡先を検索する

個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、またはコーラーリストで連絡先を検索するには、次の手順に従います。

1. コールコントロールで、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. 目的のディレクトリをクリックし、次のいずれかを実行します。
  - 目的のエントリまで、ディレクトリをスクロール
  - 目的のエントリに直接移動するには、エントリを入力
  - 姓、名、または番号で検索

## 個人ディレクトリからダイヤルする

個人ディレクトリからダイヤルするには、次の手順に従います。


1. コールコントロールで、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. **[個人ディレクトリ]** を選択します。

3. 次のいずれかの方法で、連絡先を検索します。
  - 目的の連絡先までスクロール
  - 名前または番号を指定して連絡先を検索
  - 検索する連絡先の番号を入力
4. 選択したエントリにダイヤルするには、連絡先をダブルクリックします。

## リダイヤルリストからダイヤルする

---


CS 1000 ディレクトリのリダイヤルリストからダイヤルするには、次の手順に従います。

1. コールコントロールで、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. [リダイヤルリスト] を選択します。
3. 次のいずれかの方法で、連絡先を検索します。
  - 目的の連絡先までスクロール
  - 名前または番号を指定して連絡先を検索
  - 検索する連絡先の番号を入力
4. 選択したエントリにダイヤルするには、連絡先をダブルクリックします。

## コーラーリストからダイヤルする

---

CS 1000 ディレクトリのコーラーリストからダイヤルするには、次の手順に従います。



1. コールコントロールで、 (ディレクトリ) をクリックします。
2. [コーラーリスト] を選択します。
3. 次のいずれかの方法で、連絡先を検索します。
  - 目的の連絡先までスクロール
  - 名前または番号を指定して連絡先を検索
  - 検索する連絡先の番号を入力
4. 選択したエントリにダイヤルするには、連絡先をダブルクリックします。

# IP Softphone 2050 のコール管理

## コールを開始する

コールを開始する前に、ヘッドセットを装着してください。

コールを開始するには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかの方法で、**[ライン]** を開きます。
  - コールコントロールで、 (**応答/ヘッドセット**) をクリック  
メインの電話回線が表示されます。
  - **[キー]** > **[応答]** を選択
  - コールコントロールから、**[ライン]** キーを選択
2. 次のいずれかの方法で電話番号を入力します。
  - コンピュータのテンキーからダイヤル
  - マウスのポインタを使用して、コールコントロールのダイヤルパッドからダイヤル
  - **[キー]** > **[マクロ]** を選択し、使用するマクロを選択
  -  (**ディレクトリ**) をクリックし、次の手順に従います。
    - a. CS 1000 ディレクトリ機能を開きます。個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリストのいずれかを開きます。
    - b. 目的の連絡先が表示されるまでディレクトリをスクロールします。
    - c. **[ダイヤル]** を選択します。

## コールに応答する

コールに応答する前に、ヘッドセットを装着してください。コールを受信すると、電話に設定されているスピーカの呼び出し音が鳴り、表示領域にコーラー ID (使用可能な場合) が表示されます。

**注意：** 呼び出し用スピーカを選択するには、**[ファイル]** > **[設定]** > **[サウンドデバイス]** > **[ハンズフリー / 呼出 / ポケベルデバイス]** > **[スピーカ]** をクリックします。使用するスピーカをリストから選択します。

次のいずれかの方法で、コールに応答します。

- コールコントロールで、 (応答/ヘッドセット) をクリックします。
- 呼び出し中の回線の **【ライン】** キーをクリックします。


**注意：**新しいコールに応答すると、接続中のコールは保留状態になります。接続中のコーラーを切り替えるには、該当する **【ライン】** キーをクリックしてコールを再開します。

## コールの保留および再開

---

電話を使用する前に、ヘッドセットを装着してください。

コールを保留にするか保留中のコールを再開するには、次の手順に従います。


1. アクティブなコールの **【ライン】** キーをクリックします。
2. コールコントロールから、 (保留) をクリックします。

## コールを終了する

---

コールが終了したら、手動でアクティブなラインを終了する必要があります。

コールを終了するには、次の手順に従います。

1. 該当する **【ライン】** キーをクリックして、選択されていることを確認します。
2. コールコントロールで、 (切断 / リリース) をクリックします。

# IP Softphone 2050 USB ヘッドセットアダプタ

IP Softphone 2050 を使用する前に、Nortel USB オーディオキットをインストールする必要があります。「USB ヘッドセットキットのインストール」(26 ページ)を参照してください。

## 概要

USB ヘッドセットアダプタの機能を表 2 に示します。

**表 2: USB ヘッドセットアダプタの各部名称および機能 (1/2)**

各部名称	機能
メッセージ待機ランプ	<p>赤色のメッセージ待機ランプは、USB ヘッドセットアダプタの上部にあります。</p> <p>待機中のボイスメッセージがある場合は、ランプが点灯します。</p> <p>IP Softphone 2050 で電話の呼び出し音が鳴っている間は、ランプが点滅します。</p>
最大化ボタン	<p><b>【最大化】</b> ボタンは、IP Softphone 2050 を最大化または最小化するときに押します。</p> <p>IP Softphone 2050 が最小化されている場合、このボタンを押すと IP Softphone 2050 のウィンドウが最大化されます。</p> <p>IP Softphone 2050 が別のウィンドウの背面で最大化されている場合、このボタンを押すと IP Softphone 2050 が前面に表示されます。</p> <p>IP Softphone 2050 が最大化されている場合、このボタンを押すと IP Softphone 2050 が最小化されます。</p>
スマート機能ボタン	<p>デスクトップアダプタでのみ使用できます。このボタンは、[スマート機能] メニューにアクセスするときに押します。[スマート機能] メニューの詳細は、「スマート機能メニューの使用」(48 ページ)を参照してください。</p>

表 2: USB ヘッドセットアダプタの各部名称および機能 (2/2)

各部名称	機能
応答ボタン	<p><b>【応答】</b> ボタンは、着信コールに応答するときに押します。</p> <p>着信コールがないときに、このボタンを押した場合は、IP Softphone 2050 によってラインが選択され、ダイヤルトーンが聞こえます。</p>
リリースボタン	<p><b>【リリース】</b> ボタンは、現在のコールを終了するときに押します。</p>
ミュートボタン	<p><b>【ミュート】</b> ボタンは、電話の音声を消すときに押します。ミュートした場合、相手の声は聞こえますが、こちらの声は相手には聞こえません。会話を再開するには、<b>【ミュート】</b> ボタンをもう一度押します。</p>
ミュートライト	<p><b>ミュートライト</b>は、<b>【ミュート】</b> ボタンの横にあります。通話がミュート状態のときは、ミュートライトが点灯します。通話がミュート状態でないときは、ミュートライトはオフのままです。</p>
ボリュームボタン	<p><b>【ボリューム】</b> ボタンは、ヘッドセットのボリュームを調整するときに使用します。</p> <p><b>【スマート機能】</b> メニューが表示されたときは、これらのボタンを使用してメニュー内を上下に移動します。</p>
バックライト	<p>バックライトは、ヘッドセットを IP Softphone 2050 アプリケーションに接続したときに点灯します。バックライト機能のアクティブ/非アクティブを切り替えるには、<b>【ファイル】 &gt; 【設定】 &gt; 【USB ヘッドセット】</b> をクリックし、<b>【バックライトを使用】</b> チェックボックスをオンまたはオフにします。</p>

## USB ヘッドセットアダプタでコールに応答する

---

IP Softphone 2050 の実行中は、USB ヘッドセットアダプタを使用していつでもコールに応答できます。最小化されている場合やバックグラウンドで実行されている場合でも、コールに応答できます。

USB ヘッドセットアダプタを使用してコールに応答するには、次の手順に従います。

1. ヘッドセットを装着していることを確認します。
2. **【応答】** を押します。

**注意：** IP Softphone 2050 が最小化されているかバックグラウンドで実行されている場合、応答する前にコーラー ID を表示するには、**【最大化】** ボタンを押します。IP Softphone のコールコントロールが表示されます。

## USB ヘッドセットアダプタでコールを終了する

---

IP Softphone 2050 の実行中は、USB ヘッドセットアダプタを使用していつでもコールに応答できます。最小化されている場合やバックグラウンドで実行されている場合でも、コールに応答できます。

USB ヘッドセットアダプタでコールを終了するには、**【リリース】** ボタンを押します。

## USB ヘッドセットアダプタで音量を調整する

---

USB ヘッドセットアダプタを使用して、電話の音量を調整できます。調節する場合は、調整具合を実際に確認できるよう、ヘッドセットを装着して行ってください。

音量を大きくするには、**【ボリューム】** ボタンの右側の**上矢印**を押します。

音量を小さくするには、**【ボリューム】** ボタンの左側の**下矢印**を押します。

## 通話の音を消す (ミュート機能)

ミュートした場合、相手の声は聞こえますが、こちらの声は相手には聞こえません。

ヘッドセットアダプタを使用して電話の音声を消すには、**【ミュート】** ボタンを押します。

## スマート機能メニューの使用

[スマート機能] メニューを使用すると、IP Softphone 2050 の機能に簡単にアクセスできます。このメニューの表示は、設定ユーティリティを使用してカスタマイズできます。

[スマート機能] メニューにアクセスするには、次の手順に従います。

1. USB ヘッドセットアダプタの **【スマート機能】** ボタンを押します。
2. 以下のいずれかで、使用する機能を強調表示します。
  - マウスポインタ
  - キーボードの矢印キー
  - USB ヘッドセットアダプタの **【ボリューム】** ボタン
3. 機能を選択するには、**【OK】** をクリックします。

**注意 1:** メニューに表示されている機能が 1 つしかない場合は、**【今後このダイアログを表示しない】** チェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、[スマート機能] ボタンと表示された機能が関連づけられます。その後は、[スマート機能] ボタンを押すと、メニューを表示させずに機能が直接実行されます。

**注意 2:** **【スマート機能】** ボタンは、USB ヘッドセットアダプタのデスクトップバージョンでのみご利用になれます。



## スマート機能メニューのカスタマイズ

[スマート機能] メニューに表示される機能は、設定ユーティリティを使用してカスタマイズできます。

[スマート機能] メニューをカスタマイズするには、次の手順に従います。

1. **コールコントロール**で **[ファイル] > [設定] > [USB ヘッドセット]** を選択します。  
[USB ヘッドセットの設定] ウィンドウが表示されます。
2. **[スマート機能の設定]** をクリックします。  
[スマート機能の設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. ダイアログボックスでは、[スマート機能] メニューの機能を**追加**、**削除**、または**再配置**することができます。
  - 機能を追加するには、使用する機能を **[使用できる機能]** リストから選択し、**[追加]** をクリックします。
  - 機能を削除するには、削除する機能をリストから選択し、**[削除]** をクリックします。
  - 機能を再配置するには、メニュー内で上下に移動させる機能をクリックし、**[上へ移動]** または **[下へ移動]** をクリックします。
4. **[スマート機能の設定]** ダイアログボックスを閉じるには、**[OK]** をクリックします。
5. **[USB ヘッドセット]** ダイアログボックスを閉じるには、**[OK]** をクリックします。

特殊機能を [スマート機能] メニューに追加することもできます。

## スマート機能メニューのカスタム機能

[スマート機能の設定] ダイアログボックスでは、[スマート機能] メニューのカスタム機能を追加、削除、および変更できます。

カスタム機能を追加するには

1. **[新規]** をクリックします。
2. **[名前]** ボックスに、[スマート機能] メニューに表示する名前を入力します。

3. **【コマンド】** ボックスに、追加する機能のパス名およびファイル名を入力します。

**注意：**機能のパス名またはファイル名が不明な場合は、**【コマンド】** ボックスの横の **【参照】** をクリックしてください。適切なファイルの場所まで移動してファイルを選択し、**【開く】** をクリックします。

4. **【引数】** ボックスに、この機能で使用する任意の引数を入力します。

**注意：**IP Softphone 2050 でこの特殊機能が選択されたときに、引数を求めるプロンプトを表示する場合は、**【引数のプロンプト】** を選択します。

5. **【初期ディレクトリ】** ボックスに、この機能で使用するディレクトリのパス名を入力します。

**注意：**ステップ3の **【コマンド】** ボックスと同様、パス名またはファイル名が不明な場合は **【初期ディレクトリ】** ボックスの横の **【参照】** をクリックします。適切なディレクトリに移動してファイルを選択し、**【OK】** をクリックして完了します。

6. **【スマート機能】** メニューでこの機能の横に表示されるアイコンを変更するには、**【変更】** をクリックしてからステップ7～9を実行します。アイコンを変更しない場合は、ステップ10に進みます。

7. **【参照】** をクリックします。

8. **【コマンド】** ボックスに入力したファイルの場所まで移動して、ファイルを選択します。

9. **【開く】** をクリックします。

10. 表示されるアイコンの1つを選択します。

11. **【OK】** をクリックします。

12. **【スマート機能】** メニューに新しい機能を追加するには、**【OK】** をクリックします。

カスタム機能を変更するには

1. 変更するカスタム機能を選択します。
2. **【変更】** をクリックします。
3. 必要な変更を加えます。
4. **【OK】** をクリックします。

カスタム機能を削除するには

1. 削除するカスタム機能を選択します。
2. **【削除】** をクリックします。
3. 削除を実行する場合は、**【はい】** をクリックします。

# IP Softphone 2050 マクロ

## IP Softphone 2050 マクロの概要

IP Softphone 2050 を使用してマクロを入力します。マクロとは、反復するアクションを自動化するために使用する連続したキー操作のことです。たとえば、電話番号の自動ダイヤルマクロや、発信電話番号の回線を特定するマクロなどをプログラムすることができます。


コールコントロールから IP Softphone 2050 のマクロ設定を行うには **【ファイル】 > 【設定】 > 【マクロ】** をクリックします。

マクロの設定画面には、すべてのマクロが一覧表示されます。**【キー】 > 【マクロ】** を選択してマクロにアクセスすることもできます。

## マクロの入力

マクロを入力して、手続きや反復アクションを自動化することができます。

マクロを入力するには、次の手順に従います。

1. **【設定】** ウィンドウを開きます。詳細は、「設定ウィンドウを開く」(57 ページ)を参照してください。
2. **【マクロ】** を選択します。  
[マクロ] ダイアログボックスが表示されます。
3.  **【新規マクロ】** をクリックします。  
[新規マクロ] ダイアログボックスが表示されます。
4. 新規マクロの名前を入力します。
5. 以下の方法を組み合わせて、マクロを作成します。
  - 数値を入力するには、ダイヤルパッドをクリック
  - 使用するアクションを **【キー】** メニューから選択し、**【追加】** をクリック
6. 新規マクロをリストに追加するには、**【適用】** をクリックします。

7. [マクロ] ダイアログボックスを終了するには、[OK] をクリックします。


**注意 1:** マクロに 0.5 秒の遅延を組み込む場合は、[ポーズ] アクションを使用します。これは、一部の双方向的な音声応答アプリケーションやボイスメールシステムで必要です。

**注意 2:** マクロリストでは、マクロ項目を上下に移動できます。移動するマクロ項目を選択してから、上下矢印キーを使用して、必要な方向に項目を移動します。

## マクロの削除

---

マクロを削除するには、次の手順に従います。

1. [マクロ] メニューから、削除するマクロを選択します。
2.  (マクロの削除) をクリックします。これにより、マクロが消去されます。
3. 変更を確定するには、[適用] を押します。

## マクロの実行

---

マクロを実行して、電話番号をダイヤルしたりボイスメールにアクセスしたりできます。

マクロを実行するには、次の手順に従います。

1. コールコントロールで、[キー] > [マクロ] を選択します。
2. 名前を指定して、使用するマクロを選択します。

# IP Softphone 2050 メニューコマンド

## コールコントロールのメニューコマンド

IP Softphone 2050 では、Windows スタイルのメニューコマンドシステムがサポートされており、[ファイル]、[編集]、[キー]、[表示]、および [ヘルプ] メニューが使用できます。[\[メニューバーを表示\]](#) を選択すると、メニューバーがコールコントロールの上部に表示されます。

メニューを表示するには、[\[表示\] > \[メニューバーオプション\] > \[メニューバーを表示\]](#) を選択します。

メニューを非表示にするには、[\[表示\] > \[メニューバーオプション\] > \[メニューバーを隠す\]](#) を選択します。[\[メニューバーを隠す\]](#) が設定されているメニューにアクセスするには、コールコントロールの上部にカーソルを移動します。メニューが表示されます。

**注意：** [\[メニューバーを隠す\]](#) を正しく機能させるには、IP Softphone 2050 がフォーカスされている必要があります。IP Softphone 2050 をフォーカスするには、コールコントロールをクリックします。

## ファイルメニューの使用

[ファイル] メニューでは、以下のいずれかを選択できます。

- **バックグラウンドで実行** – コールコントロールをバックグラウンドに送ります。アプリケーションは実行中なので、引き続きコールを受信できます。
- **このコールを記録** – すべての着信コールまたは発信コールの記録を開始します。

**注意：** サードパーティ (サーバー) またはファーストパーティ (クライアント) が制御する通話記録には、サーバー対応のアプリケーションまたは別の記録アプリケーションが必要になります。通話記録機能の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

- **設定** – [設定] ウィンドウを開くと、各種タブが表示されます。
- **終了** – IP Softphone 2050 アプリケーションを終了します。

## 編集メニューの使用

[編集] メニューでは、以下のいずれかを選択できます。

- **コピー** – 表示ウィンドウの内容を、他のアプリケーションで使用できるようにコピーします。
- **貼り付け** – 他のアプリケーションからコピーされた電話番号またはその他のダイヤル可能な文字列を貼り付けます。
- **入力モード** – アプリケーションが、キーボードからの入力を解釈する方法を選択します。次の 3 とおりの方法があります。
  - **数字** – [数字] を選択すると、IP Softphone 2050 がキーボードの文字を単一のダイヤル番号として「1-800」などと解釈します。
  - **英字** – [英字] を選択すると、各キーボード文字が、IP Softphone 2050 では複数の数字として解釈されます。このオプションは、ネットワークディレクトリに名前を入力するときなどに使用します。この場合、**B** という文字は **2 2** と解釈されます。英字モードを選択すると、**Bob** という名前が、アプリケーションでは **2 2 ポーズ 6 6 6 ポーズ 2 2 ポーズ** と解釈されます。
  - **ネイティブ** – [ネイティブ] を選択すると、英字キーが、IP Softphone 2050 では ASCII 文字として解釈されます。このモードはサーバーのサポートが必要です (通常、項目はグレー表示)。

## キーメニューの使用

[キー] メニューでは、以下のいずれかを選択できます。

- **ヘッドセット/ハンドセット** – 着信コールに応答する、またはコールを開始するためのダイヤルトーンを取得するときに選択します。
- **ハンズフリー** – ハンズフリースピーカを使用してコールに応答する、またはコールを開始するときに選択します。使用するスピーカを設定するには、[ファイル] > [設定] > [サウンドデバイス] を選択します。[ハンズフリー/呼出/ポケベルデバイス]のセクションで、[スピーカ] リストから選択します。
- **応答** – 着信コールに応答する、またはダイヤルトーンを取得するときに選択します。
- **切断** – 通話を終了するときに選択します。
- **保留** – 接続中の通話を保留にするときに選択します。
- **ミュート** – 電話の音声を消すときに選択します。通話をミュートすると相手の声は聞こえますが、こちらの声は相手には聞こえません。

- **送信** – 選択したメニューの確定をしたり、入力を終了するときに選択します。
- **機能** – サーバーでサポートされている、使用可能な機能のリストを表示するときに選択します。
- **マクロ** – マクロメニューから、ダイヤルするマクロを選択します。

### 表示メニューの使用

[表示] メニューでは、以下のいずれかを選択できます。

- **ローカルディレクトリ** – [ローカルディレクトリ] ウィンドウにアクセスするときに選択します。詳細は、「ローカルディレクトリ」(20 ページ)を参照してください。
- **メニューバーオプション** – メニューバーの表示/非表示を切り替えるときに選択します。使用していないメニューバーを隠すには、**[メニューバーを隠す]**を選択します。
- **常に手前に表示** – 電話を常に手前に表示するときに選択します。

### ヘルプメニューの使用

[ヘルプ] メニューでは、以下のいずれかを選択できます。

- **クイックスタート** – コールコントロールおよび USB ヘッドセットの操作に関する基本的な情報を表示するときに選択します。
- **ホットキー** – **ボタン**および**メニュー**のホットキー一覧を表示するときに選択します。
- **目次** – IP Softphone 2050 ヘルプの目次を開くときに選択します。
- **検索** – IP Softphone 2050 ヘルプで特定の項目を検索するときに選択します。
- **索引** – IP Softphone 2050 索引を開くときに選択します。
- **IP Softphone 2050 のバージョン情報** – バージョン番号、著作権情報など、IP Softphone 2050 の情報を表示するときに選択します。



# IP Softphone 2050 の設定

[設定] ウィンドウ (図 3 を参照) では、各種 IP Softphone 2050 機能にアクセスしたり、それらを設定したりすることができます。[設定] ウィンドウは、Windows の [スタート] メニューまたは IP Softphone 2050 のコールコントロールから開くことができます。

図 3: [設定] ウィンドウ



## 設定ウィンドウを開く

[設定] ウィンドウを開くには、以下のいずれかのオプションを使用します。

- Windows オペレーティングシステムの場合は、次の手順に従います。
  - [スタート] > [プログラム] > [Nortel] > [IP Softphone 2050] > [IP Softphone 2050 の設定] を選択します。
  - [スタート] > [コントロール パネル] > [IP Softphone 2050] を選択します (Windows XP の場合、設定のリストを表示するには [クラシック表示に切り替える] を選択します)。
- IP Softphone 2050 のコールコントロールの場合は、次の手順に従います。
  - [ファイル] > [設定] を選択します。

## 設定ウィンドウの使用

---

以下のセクションでは、IP Softphone 2050 のさまざまな機能を設定する方法について説明します。

- 「プロファイル」(59 ページ)
- 「サーバー」(61 ページ)
- 「スキン」(63 ページ)
- 「機能」(63 ページ)
- 「マクロ」(64 ページ)
- 「オーディオ」(64 ページ)
- 「サウンドデバイス」(65 ページ)
- 「ハードウェア ID」(66 ページ)
- 「オーディオの詳細設定」(67 ページ)
- 「リスナー IP」(69 ページ)
- 「サウンド」(70 ページ)
- 「ホットキー」(70 ページ)
- 「テキストの置換」(70 ページ)
- 「ランプのサウンド」(71 ページ)
- 「キータイプ」(72 ページ)
- 「バージョン情報」(73 ページ)
- 「言語」(73 ページ)
- 「個人通話記録」(73 ページ)
- 「USB ヘッドセット」(74 ページ)

機能のリストは、IP Softphone 2050 の [設定] ウィンドウの左ペインに表示されます(57 ページの図 3 を参照)。使用する機能を選択すると、対応するダイアログボックスが表示されます。

## プロフィール

プロフィールを使用して、IP Softphone 2050 を設定します。プロフィールを使用すると、同じコンピュータ上に複数の IP Softphone 2050 の設定を保持できます。任意の機能に対する変更は、現在のプロフィールにのみ適用されます。

**注意：**現在のプロフィールの名前は、すべての IP Softphone 2050 の [設定] ダイアログボックスの右下、[適用] ボタンの上に表示されます (57 ページの図 3 を参照)。

[プロフィール] ダイアログボックスを開くには、[設定] ウィンドウの左ペインに表示されるリストから **[プロフィール]** を選択します。

### プロフィールの新規作成

[プロフィール] ダイアログボックスの上部のテキストボックスには、現在のプロフィールが表示されます。

プロフィールを新規作成するには、次の手順に従います。

1. **[新規]** をクリックします。  
[プロフィール名] という名前の空のテキストボックスが表示されます。
2. 新規プロフィールの名前を入力します。
3. **[OK]** をクリックします。

### プロフィールの削除

プロフィールを削除するには、次の手順に従います。

1. プロファイルのリストから、削除するプロフィールを選択します。
2. **[削除]** をクリックします。  
「プロフィールを削除してよろしいですか？」というメッセージが表示されます。
3. **[はい]** をクリックします。  
プロフィールがリストから削除されます。

**注意：**[マイサーバー] は組み込み型のプロフィール名で、削除できません。

## プロフィール名の変更

プロフィール名を変更するには、次の手順に従います。

1. プロファイルのリストから、変更するプロファイルを選択します。
2. **[名前の変更]** をクリックします。

[プロフィール名] テキストボックスが表示され、プロフィール名が強調表示されます。

3. 新規プロフィール名を入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

新しい名前がリストに表示されます。

## プロファイルの選択

現在のセッションで IP Softphone 2050 が使用するプロファイルを選択するには、次の手順に従います。

1. プロファイルのリストから、使用するプロファイルを選択します。
2. **[リセット]** をクリックします。

IP Softphone 2050 が現在実行中の場合は、プロファイルで定義されたサーバーとの通信の再確立が試行されます。[Main Application] (メインアプリケーション) 画面が表示されます。

IP Softphone 2050 が現在実行されていない場合、[設定] ウィンドウは閉じます。次回 IP Softphone 2050 を起動すると、プロファイルで定義されたサーバーへの接続が試行されます。

**注意：**現在のプロファイルで使用されているサーバーを確認するには、IP Softphone 2050 設定の [サーバー] ダイアログボックスを確認します。

## プロファイルのエクスポート

IP Softphone 2050 プロファイルをコンピュータのハードドライブにエクスポートして、設定のバックアップとして保存したり、他のアプリケーションで使用したりできます。

プロファイルをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. **[エクスポート]** をクリックします。

[名前を指定して保存] ダイアログボックスが表示されます。

2. ファイル名を指定して、選択したパスにプロファイルを保存します。

現在の IP Softphone 2050 プロファイルが cfx ファイル(設定バックアップファイル)として保存されます。

## プロファイルのインポート

バックアップされた設定ファイルを、復元して使用するには、プロファイルをインポートします。

保存済みのプロファイルをインポートするには、次の手順に従います。

1. **[インポート]** をクリックします。  
[開く] ダイアログボックスが表示されます。
2. 使用するプロファイルを見つけて選択します。  
[プロファイルのインポート] テキストボックスが表示されます。
3. インポートする 1 つまたは複数のプロファイルを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

## サーバー

[サーバー] ダイアログボックスを使用して、Communication Server と IP Softphone 2050 の接続を設定します。デフォルトの DHCP を使用するか、手動で IP アドレスを指定できます。

**[サーバー]** ダイアログボックスを開くには、[設定] ウィンドウの左ペインに表示されるリストから **[サーバー]** を選択します。

## DHCP の使用

**[自動(DHCP)]** を有効にすると、IP Softphone 2050 は動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバーからサーバーアドレスを読み取ります。

**注意:** DHCP を使用するには、ローカルエリアネットワーク (LAN) に DHCP サーバーが置かれている必要があります。適切な IP アドレス値を指定してサーバーを設定する方法については、システム管理者にお問い合わせください。

[自動(DHCP)] を使用するには、次の手順に従います。

1. **[自動(DHCP)]** チェックボックスを選択します。
2. **[サーバー]** リストからサーバーを選択します。[プライマリ]、[セカンダリ]、または [アプリケーション (XAS)] サーバーのいずれかを選択できます。

**注意 1:** プライマリサーバーおよびセカンダリサーバーは、DHCP により割り当てられます。

**注意 2:** XAS サポートは、将来の使用のために予約されています。

## IP アドレスおよび DNS 名の使用

Communication Server が DHCP をサポートしていない場合、IP アドレスまたは DNS 名を手動で割り当てる必要があります。

手動 IP アドレスまたは DNS 名を割り当てるには、Communication Server に関する次の情報が必要です。

- IP アドレスまたは DNS 名
- ポート番号
- サーバーの種類

IP アドレスまたは DNS 名を割り当てるには、次の手順に従います。

1. **[サーバー]** リストから、設定するサーバーを選択します。**[プライマリ]** または **[セカンダリ]** のいずれかを選択します。
2. **[IP]** を選択して IP アドレスを入力するか、**[名前]** を選択して DNS 名を入力します。
3. **[種類]** リストからサーバータイプを選択します。  
デフォルトのポート番号が、**[ポート]** テキストボックスに表示されます。
4. サーバーのポート番号がデフォルトの数値と異なる場合は、正しい番号を **[ポート]** テキストボックスに入力します。

**注意 :** Symposium コールセンターエージェントの場合は、**[Symposium]** チェックボックスをオンにしてください。

## 初期設定に戻す

設定ダイアログで既定値に戻すには、**[初期設定]** をクリックします。

## 接続の再設定

IP Softphone 2050 の実行中にサーバーの接続を再設定するには、**[リセット]** をクリックします。

## スキン

[スキン] ダイアログボックスは、1140 スキン、またはコンパクトスキン(ブラックまたはシルバー)のいずれかを選択するときに使用します。このダイアログボックスは、ユーザー補助アクセスインターフェイスに切り替えるときに使用することもできます。

スキンを選択するには、次の手順に従います。

1. **[スキン]**メニューから**[1140]**、**[ブラック]**、または**[シルバー]**を選択します。
2. **[OK]** をクリックします。

インストール時にデフォルトのパスを上書きした場合、IP Softphone 2050 ファイルの適切なパスを指定する必要があります。

IP Softphone ファイルへのパスを選択するには、次の手順に従います。

1. **[参照]** をクリックします。  
フォルダの参照ダイアログボックスが表示されます。
2. ファイルシステムで IP Softphone 2050 フォルダを見つけて選択します。
3. **[OK]** をクリックします。

**注意：** [スキン] ダイアログボックスでは、IP Softphone 2050 をユーザー補助アクセスインターフェイスとして設定することもできます。ユーザー補助アクセスインターフェイスを開く、または使用方法は、「ユーザー補助アクセスインターフェイス」(78 ページ)を参照してください。

## 機能

[機能] ダイアログボックスは、コールコントロールの **[キー]** > **[機能]** に表示される機能を再配置するときに使用します。

[機能] メニューには、サーバーでサポートされているすべての使用可能な機能がリストされます。リストで個々の項目を上下に移動するには、矢印キーを使用します。リストには次の項目が含まれます。

- メッセージ
- ディレクトリ
- シフト
- サービス
- 拡張
- コピー
- 終了
- リダイヤルリスト
- コーラーリスト

**注意：**CS 1000 システムでは、[使用できる機能] リストには何も入っていません。

[使用できる機能] リストに含まれる任意の項目には、**[キー] > [機能]** リストからアクセスできます。

## マクロ

---

マクロの設定の詳細は、「IP Softphone 2050 マクロ」(52 ページ)を参照してください。

## オーディオ

---

[オーディオ] ダイアログボックスは、オーディオハードウェアと IP Softphone 2050 の間のバッファのレベルを調整するときに使用します。

[品質] スライダーは、遅延の量を増加または減少させるときに使用します。**[短遅延]** にすると、バッファは高速になりますが、オーディオの品質は低下します。**[高品質]** にすると、オーディオの品質は向上しますが、バッファは低速になります。

**注意：**使用している IP Softphone 2050 オーディオのサウンドが不安定で途切れがちの場合は、スライダーを「高品質」の方向に移動してください。



## サウンドデバイス

[サウンドデバイス] ダイアログボックスは、さまざまな IP Softphone サウンドデバイスを選択および設定するときに使用します。

ダイアログボックスは、2 つの領域に分かれています。

- ヘッドセットまたはハンドセットデバイス
- ハンズフリー / 呼出 / ポケベルデバイス

### ヘッドセットまたはハンドセットデバイス

ヘッドセットまたはハンドセットを使用する場合、この領域では次の操作を行います。

- マイクおよびスピーカの選択
- ボリュームの調整
- ミュートの状態を選択またはクリア

[マイク] テキストボックスには、現在選択されているマイクが表示されます。マイクを変更するには、使用するマイクをマイクのリストから選択します。

[スピーカ] テキストボックスには、現在選択されているスピーカが表示されます。スピーカを変更するには、使用するスピーカをスピーカのリストから選択します。

マイクおよびスピーカのボリュームを調整するには、ボリュームのスライダバーを使用します。

両方のデバイスの音を消すには、**[ミュート]** を選択します。

### ハンズフリー / 呼出 / ポケベルデバイス

ハンズフリー / 呼出 / ポケベルデバイスを使用する場合、この領域では次の操作を行います。

- マイクおよびスピーカの選択
- ボリュームの調整
- ミュートの状態を選択またはクリア

[マイク] テキストボックスには、現在選択されているマイクが表示されます。マイクを変更するには、使用するマイクをマイクのリストから選択します。

[スピーカ] テキストボックスには、現在選択されているスピーカが表示されず。スピーカを変更するには、使用するスピーカをスピーカのリストから選択します。

マイクおよびスピーカのボリュームを調整するには、ボリュームのスライダバーを使用します。

両方のデバイスの音を消すには、[ミュート] を選択します。

設定をインストール時の値に戻すには、[既定値に戻す] をクリックします。

## ハードウェア ID

---

**注意：**このダイアログボックスは、上級ユーザー専用です。

[ハードウェア ID] ダイアログボックスは、Communication Server に送信するハードウェアアドレスを選択するときに使用します。[ハードウェア ID] テキストボックスに現在のハードウェアアドレスが表示されます。

## MAC アドレス

IP Softphone 2050 のデフォルト IP アドレスは、Ethernet ハードウェアから Medium Access Control (MAC) アドレス形式で提供されます。複数の Ethernet インターフェイスがインストールされている場合、IP Softphone 2050 では、検出された最初の MAC アドレスが選択され、それ以降の再接続ではそのアドレスが使用されます。

**注意：**仮想プライベートネットワーク (VPN) クライアントによっては、MAC アドレスが隠されている場合があります。その場合は、サーバーとの通信問題を避けるため、デフォルト値を上書きする必要があります。

## MAC アドレスの選択

MAC アドレスを選択するには、次の手順に従います。

1. **[自動作成]** をクリックします。[ハードウェア ID] テキストボックスに、アドレス範囲内で次に使用可能なアドレスが表示されます。
2. 必要なアドレスが見つかるまで、**[自動作成]** をクリックし続けて、使用可能なアドレスの範囲を移動します。

使用可能なすべての MAC アドレスをクリックした後は、[自動作成] によりランダムなハードウェア ID 数値が生成されます。使用する Ethernet ハードウェアアドレスがサーバー上で固有でない場合は、これらの番号の 1 つを選択してください。

インストール時のデフォルトに設定を戻すには、**[初期設定]** をクリックします。

IP Softphone 2050 の実行中にサーバーの接続を再設定するには、**[リセット]** をクリックします。

**注意：** [ファームウェアバージョン] フィールドには、サーバーにより報告された最新の IP Softphone 2050 ファームウェアバージョンが表示されます。

## オーディオの詳細設定

**注意：** このダイアログボックスは、上級ユーザー専用です。

[オーディオの詳細設定] ダイアログボックスは、Communication Server で定義されているオーディオ値を上書きするときに使用します。

### NetEQ(グローバル IP サウンド)の使用

[NetEQ (グローバル IP サウンド)] は、NetEQ パケット損失補填ソフトウェアにより割り当てられたオーディオ値を使用するときに選択します。NetEQ は、ワイヤレスやインターネットなど、損失が生じやすい環境でボイス品質を保持するのに役立ちます。

### Communication Server の値の上書き

ネットワークのパフォーマンスが原因でオーディオの障害が発生する場合、この領域で値を調整すると、実行可能なオーディオ品質のバランスを得ることができます。

**[Communication Server の値を上書きする]** は、以下の値を調整するときに選択します。

- ジッタ
- 最大許容値
- 早期パケット再同期
- 遅延パケット再同期

### ジッタ

ボイスフレームは一定の速度で送信されますが、一部のフレームが他のフレームより早くまたは遅く到達することがあります。これが原因で、ジッタと呼ばれるサウンドの品質低下が発生する場合があります。ジッタバッファによりフレームの配信にわずかな遅延が追加されるため、送信はスムーズになり、サウンドの品質は向上します。

ジッタバッファのフレーム数を増加または減少させるには、**[ジッタ]** スピンボックスで **上下** 矢印を使用します。

### 最大許容値

最大許容値は、パケットの破棄を開始するまで、ジッタバッファが保持するフレームの最大数を表わします。

最大許容値を増加または減少させるには、**[最大許容値]** スピンボックスで **上下** 矢印を使用します。

**注意：** 最大許容値は、[ジッタ] スピンボックスの値の 2.5 倍に設定する必要があります。それより小さい値が割り当てられた場合、IP Softphone 2050 では自動的にエラーが修正されます。

### 早期パケット再同期と遅延パケット再同期

これらの値は、IP Softphone 2050 に対して、ジッタバッファの内容をいつ破棄して再起動するかを指示します。

ミリ秒単位で設定される早期パケット再同期値より前、または同様にミリ秒単位で設定される遅延パケット再同期値より後にパケットが到着した場合は、再同期操作が開始されます。

早期パケット再同期値または遅延パケット再同期値を増減するには、対応するスピンボックスの上にある **上** 矢印または **下** 矢印をクリックします。

どちらの再同期値も、最大許容値の 5 倍以上に設定する必要があります。

再同期値は、次の計算式を使用して計算します。

**フレームサイズ x 最大許容値 x 2**

フレームサイズは、フレームあたりのミリ秒数を表します。フレームサイズは、Communication Server によって割り当てられます。標準的なフレームサイズは 10 ミリ秒です。

## リスナー IP

**注意：**このダイアログボックスは、上級ユーザー専用です。

IP Softphone 2050 アプリケーションがコンピュータ上のほかのアプリケーションと競合した場合は、[リスナー IP] ダイアログボックスを使用してポート割り当てを上書きします。

通常の操作では、IP Softphone 2050 はすべての IP アドレスおよび IP ポートの UNiStim トラフィックをリスニングします。ある特定の IP アドレスまたはポートのみリスニングするように IP Softphone 2050 を設定することもできます。

特定のアドレスを使用するには、次の手順に従います。

1. **[特定のアドレスを使用]** を選択します。

グレー表示のテキストボックスがアクティブになります。

2. IP Softphone 2050 でリスニングするアドレスを入力します。IP アドレスの形式は 99.99.99.99 です。

特定のポートを使用するには、次の手順に従います。

1. **[特定のポートを使用]** を選択します。

グレー表示のテキストボックスがアクティブになります。

2. IP Softphone 2050 でリスニングするポートを入力します。

インストール時のデフォルトに設定を戻すには、**[初期設定]** をクリックします。

## サウンド

---

[サウンド] ダイアログボックスを使用して、IP Softphone 2050 がコールサーバーに接続または切断するときのサウンド効果を選択します。

サウンドは、次の 3 つのイベントのいずれかに割り当てることができます。

- サーバーに接続完了
- サーバーに接続不可
- サーバーの応答なし

イベントにサウンドを割り当てするには、次の手順に従います。

1. **[イベントの選択]** リストから、割り当てイベントを選択します。
2. **[サウンドの再生]** を選択します。
3. 使用するオーディオファイルのパスとファイル名を入力します。参照をクリックしてファイルを探すこともできます。

選択したファイル名がテキストボックスに表示されます。

**注意：** IP Softphone 2050 は、現在 .wav ファイルのみサポートしています。

選択したサウンドをテストするには、**[再生]** 矢印ボタンを押します。再生中にサウンドを停止するには、正方形の **[停止]** ボタンをクリックします。

## ホットキー

---

キーボードホットキーを割り当てて、コールコントロールのすべての機能およびメニューオプションにアクセスすることができます。

IP Softphone 2050 でのホットキーの追加または削除の詳細は、「ホットキー」(18 ページ)を参照してください。

## テキストの置換

---

**注意：** このダイアログボックスは、ユーザー補助アクセスインターフェイスからのみ使用できます。

〔テキストの置換〕ダイアログボックスを使用して、アクセスインターフェイスでサーバーが提供するテキストを変更します。変更時に画面読み取りソフトウェアによって判断された余分なテキストを短縮または削除する必要があります。

テキストの置換テーブルには、現在割り当てられているすべてのテキスト置換ルールが一覧表示されます。元のテキストと置換テキストの両方がリストに表示されます。

新しいテキスト置換ルールを追加または既存のルールを変更するには、次の手順に従います。

1. **〔新規〕** または **〔変更〕** をクリックします。  
〔検索と置換〕ダイアログボックスが開きます。
2. 変更するテキストを **〔検索する文字列〕** テキストボックスに入力します。  
次のいずれかを選択して、検索に条件を割り当てることができます。
  - **〔完全に一致〕** は、その単語に一致する文字列を検索します。
  - **〔ディスプレイ〕** は、ディスプレイ領域を検索します。
  - **〔コンテキスト〕** は、コンテキスト領域を検索します。
  - **〔ソフトキー〕** は、ソフトキー領域を検索します。
  - **〔ライン/機能キーテキスト〕** は、ライン/機能領域を検索します。
  - **〔日時〕** は、日付と時刻領域を検索します。
3. **〔置換後の文字列〕** テキストボックスに、新しいテキストを入力します。
4. **〔OK〕** をクリックします。  
**〔検索する文字列〕** ダイアログボックスが閉じます。
5. **〔適用〕** をクリックします。

既存のテキスト置換ルールを削除するには、次の手順に従います。

1. 削除するルールをリストから選択します。
2. **〔削除〕** をクリックします。

テキストルールが消えます。影響を受けるテキストは、元の形式に戻ります。

## ランプのサウンド

〔ランプのサウンド〕ダイアログボックスを使用して、メッセージランプまたはミュートランプが点灯したときに知らせるサウンド効果を選択します。

メッセージまたはミュートランプにサウンドを割り当てるには、次の手順に従います。

1. **【条件の選択】** リストから、**【メッセージランプをオンにする】** または **【ミュートランプをオンにする】** を選択します。
2. **【サウンドの再生】** を選択します。
3. 使用するオーディオファイルのパスとファイル名を入力します。参照ボタンをクリックしてファイルを検索することもできます。  
選択すると、ファイル名がテキストボックスに表示されます。
4. サウンドを繰り返す頻度を **【繰り返し間隔】** 領域にある **【分】** および **【秒】** フィールドに入力します。

**注意：** IP Softphone 2050 は、現在 .wav ファイルのみサポートしています。

## キータイプ

IP Softphone のコールコントロールでは、6 つのライン/機能キーがサポートされています (15 ページの図 2 を参照)。**【キータイプ】** ダイアログボックスを使用して、IP Softphone 2050 がコールの発信に使用するキー(ラインキー)を選択します。

ラインキーを割り当てるには、次の手順に従います。

1. 使用する 1 つまたは複数のキーの横にあるチェックボックスをオンにします。キーのレイアウトは、コールコントロールのレイアウトに対応します。
2. **【適用】** をクリックします。

インストール時のデフォルトに設定を戻すには、**【初期設定】** をクリックします。

## 電話番号ダイアログボックス

**【ローカルディレクトリ】** からコールする場合、またはシステムトレイメニューから **【コールする】** を選択する場合は、**【電話番号】** ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスの **【ラインキーの選択】** メニューには、選択したラインがすべて表示されます。**【キータイプ】** ダイアログボックスを使用して、このリストの項目を追加または削除します。

## ユーザー補助アクセスインターフェイス

ユーザー補助アクセスインターフェイスでは、選択したキーが **【アイドル】** または **【アクティブ】** として表示されます。選択されていないキー (機能キー) は、**【機能が無効です】** または **【機能が有効です】** として表示されます。



## バージョン情報

---

[バージョン情報] ダイアログボックスには、次のような、IP Softphone 2050 に関する現在の情報が表示されます。

- 現在のバージョン情報
- 著作権情報
- Nortel ロゴ
- Global IP Sound ロゴ

## 言語

---

[言語] ダイアログボックスを使用して、IP Softphone 2050 の [設定] ウィンドウ、[ローカルディレクトリ]、およびメインアプリケーションに関連付けられているすべてのメニューとダイアログの言語を選択します。

**注意：** IP Softphone 2050 の操作中に表示される一部の言語は、Communication Server またはコンピュータのオペレーティングシステム (OS) の表示です。[言語] ダイアログボックスで言語を設定しても、サーバーまたは OS が提供する言語には**影響しません**。サーバーが提供する言語を変更するには、81 ページの「言語の設定」のセクションを参照してください。

現在設定されている言語を変更するには、次の手順に従います。

1. [言語] リストから、使用する言語を選択します。
2. **[OK]** をクリックします。

対応言語：英語、フランス語、スウェーデン語、デンマーク語、ドイツ語、ノルウェー語、オランダ語、ポルトガル語、チェコ語、フィンランド語、ハンガリー語、イタリア語、ポーランド語、スペイン語、日本語、ロシア語、ラトビア語、トルコ語

## 個人通話記録

---

個人通話記録を使用するには、Nortel 認定サードパーティアプリケーションがインストールされている必要があります。[個人通話記録] ダイアログボックスを使用して、次の処理を行います。

- IP Softphone 2050 で通話を記録します。

- 個人通話記録アプリケーションを起動します。
- 通話記録が有効な場合に警告メッセージを表示します。

サードパーティアプリケーションに関する情報は、次のフィールドに表示されます。

- **【アプリケーション】**には、サードパーティアプリケーションの名前が表示されます。
- **【バージョン】**には、アプリケーションの現在のバージョン番号が表示されます。
- **【ベンダー】**には、アプリケーションのベンダー名が表示されます。
- **【パス】**には、コンピュータ上でサードパーティアプリケーションが置かれているディレクトリとファイル名が表示されます。

IP Softphone 2050 で通話の記録をするには、次の手順に従います。

1. **【このアプリケーションでの通話記録を許可する】**を選択します。
2. **【OK】** または **【適用】** をクリックします。

起動時に通話記録アプリケーションを起動するには、次の手順に従います。

1. **【個人通話記録アプリケーションを起動する】**を選択します。
2. **【OK】** または **【適用】** をクリックします。

通話記録が有効な場合に警告メッセージを表示するには、次の手順に従います。

1. **【通話記録が有効な場合に警告メッセージを表示する】**を選択します。
2. **【OK】** または **【適用】** をクリックします。

## USB ヘッドセット

---

【USB ヘッドセット】 ダイアログボックスを使用して、次の処理を行います。

- 使用するヘッドセットのタイプを選択します。
- 外部ランプの制御方法を設定します (ランプがある場合)。
- USB ヘッドセットアダプタのバックライトをアクティブにします。
- **【スマート機能の設定】** ダイアログボックスにアクセスします。

## ヘッドセットの選択

パフォーマンスを最適化するために、USB ヘッドセットアダプタに現在接続しているヘッドセットに対応するヘッドセットをリストから選択します。

ヘッドセットを選択するには、次の手順に従います。

1. リストから、使用しているヘッドセットを選択します。
2. **【適用】** をクリックします。

## 外部ランプ制御の設定

**注意：**外部ランプは、デスクトップ用アダプタでのみ使用できます。

IP Softphone 2050 には、外部に LED ランプ(オプション)があります。このランプは使用中に点灯します。通話状態、ヘッドセット接続、およびメッセージ待機を視覚的に確認することができます。

次の条件で点灯するようにランプを設定できます。

- 手動制御
- ヘッドセット切断
- アクティブコール
- メッセージ待機

上記の各条件に使用するケイデンス(ランプの点灯方法)を選択します。使用可能なケイデンスは次のとおりです。

- なし
- オン
- フラッシュ
- フリッカー
- 点滅

### 手動制御

手動制御が有効になっている場合は、USB ヘッドセットアダプタの[スマート機能] ボタンを押して、外部ランプをオンにできます。

手動制御を有効にするには、リストから目的のケイデンスを選択します。手動制御を無効にするには、**【なし】** を選択します。

### ヘッドセット切断

ヘッドセット切断が有効になっている場合は、ヘッドセットが USB ヘッドセットアダプタから切断されると、外部ランプがアクティブになります。

ヘッドセット切断を有効にするには、リストから目的のケイデンスを選択します。ヘッドセット切断を無効にするには、**【なし】**を選択します。

### アクティブコール

アクティブコールが有効になっている場合は、IP Softphone 2050 が通話中の回線があると判断すると、外部ランプがアクティブになります。

アクティブコールを有効にするには、リストから目的のケイデンスを選択します。アクティブコールを無効にするには、**【なし】**を選択します。

USB ヘッドセットアダプタが呼出スピーカとして選択されている場合にアクティブコールを有効にすると、コールの着信時も外部ランプがアクティブになります。

**注意：**外部ランプは、USB ヘッドセットアダプタと同じオーディオチャネルを使用するほかのアプリケーションでも反応します。

### メッセージ待機

メッセージ待機が有効になっている場合は、IP Softphone 2050 でボイスメールメッセージがあるときに、外部ランプがアクティブになります。

メッセージ待機を有効にするには、リストから目的のケイデンスを選択します。メッセージ待機を無効にするには、**【なし】**を選択します。

### 優先順位

複数の条件が有効になっている場合は、最も優先順位の高い条件に従って外部ランプがアクティブになります。次に、条件の優先順位を高いものから順に示します。

- 手動制御
- ヘッドセット切断
- アクティブコール
- メッセージ待機

## バックライトの使用

IP Softphone 2050 の実行中は、バックライトで USB ヘッドセットアダプタのボタンが光ります。

バックライトを有効にするには、**[バックライトを使用]** を選択します。

## スマート機能の設定

デスクトップ USB ヘッドセットアダプタの [スマート機能] ボタンを使用すると、簡単に IP Softphone 2050 機能にアクセスできます。

[スマート機能] ボタンの設定の詳細については、「スマート機能メニューのカスタマイズ」(49 ページ)を参照してください。

**注意：** [スマート機能] ボタンは、USB ヘッドセットアダプタのデスクトップバージョンでのみご利用になれます。

# ユーザー補助アクセスインターフェイス

ユーザー補助アクセスインターフェイスは、Freedom Scientific の JAWS® for Windows など、視覚に障害のあるユーザーが IP Softphone 2050 のすべての機能にアクセスできるようにする画面読み取りソフトウェアと連動します。

コールコントロールから IP Softphone 2050 ユーザー補助アクセスインターフェイスを開くには、次の手順に従います。

1. **[ファイル] > [設定] > [スキン]** を選択します。
2. **[ユーザー補助アクセスインターフェイス]** を選択します。

**注意：**ユーザー補助アクセスインターフェイスへの変更を有効にするには、IP Softphone 2050 を終了し、再起動する必要があります。

## 制御グループ

---

ユーザー補助アクセスインターフェイスでは、次の 4 つの制御グループにアクセスできます。ディスプレイ、ライン/機能、日時、およびインジケータという 4 つの制御グループに分割されます。

### ディスプレイ

ディスプレイの表示で IP Softphone 2050 の現在の動作状況を確認します。

通話中の場合は、ディスプレイで次を確認できます。

- 通話ライン ID
- 会議電話や転送など、各コール処理オプションのステータス

通話していない場合は、ディスプレイで次を実行できます。

- IP Softphone 2050 のプログラミング
- ボイスメールへのアクセス
- CS 1000 Directory の機能 (個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、コーラーリスト) の使用

## ラインと機能

ライン/機能の使用可能な 6 つのキーを使用して、コールの発着信を行うか、サーバーでサポートされるさまざまな IP Softphone 2050 機能にアクセスします。

**注意：**ラインキーの割り当てを実行できるのはシステム管理者のみです。サーバーが提供する使用可能な機能については、システム管理者にお問い合わせください。

## 日時

日時を表示させ、現在の日付と時刻を確認します。通話中は、一番上のフィールドで接続の経過時間を確認できます。

## インジケータ

インジケータでは、メッセージがあるかどうかを確認したり、ミュート機能のオン/オフを判断したりできます。

## ユーザー補助アクセスインターフェイスメニュー

---

ユーザー補助アクセスインターフェイスでは、標準のコールコントロールと同じメニューコマンドを使用できます。[ファイル]、[編集]、[キー]、[表示]、および [ヘルプ] がすべてサポートされます。詳細は、「IP Softphone 2050 メニューコマンド」(54 ページ)を参照してください。

## 制御グループおよびメニューコマンドの操作

---

マウスの代わりにキーボードを使用して、4 つの制御グループフィールドとメニューコマンドシステムにアクセスできます。

### 制御グループの操作

次のキー操作を行い、4 つの制御グループフィールド間を移動します。

- 次のフィールドに移動するには、**Tab キー**を押します。

- 前のフィールドに移動するには、**Shift キーを押したまま Tab キー**を押します。
- 次の制御グループに移動するには、**Page down キー**を押します。
- 前の制御グループに移動するには、**Page up キー**を押します。
- 最初の制御グループに移動するには、**Home キー**を押します。
- 最後の制御グループに移動するには、**End キー**を押します。
- 現在のカーソル位置にあるフィールドを読み取るには、**F1 キー**を押します。
- 現在のカーソル位置にある制御グループの内容を読み取るには、**Shift キーを押したまま F1 キー**を押します。
- カーソルが実行可能フィールド上にある場合に、現在のカーソル位置からコマンドを実行するには、**Shift キーを押したまま Enter キー**を押します。

## メニューコマンドの操作

キーボードからメニューコマンドシステムにアクセスするには、**Alt** キーを押したまま、アクセスするメニューの最初の文字を押します。例えば、**[ファイル]**メニューにアクセスするには **Alt キーを押したまま F キー**を押します。

メニューコマンドでは、次の操作を行うことができます。

- 方向キーを使用して、5 つのメニュー間を左右に移動します。
- 方向キーを使用して、メニューを上下に移動し、移動先のオプションをハイライト表示します。
- 選択するには、**Enter キー**を押します。または、選択する項目の最初の文字を押します。

## ホットキーの使用


キーボードにホットキーを割り当てて、すべての IP Softphone 2050 機能をユーザー補助アクセスインターフェイスから使用するのに必要なあらゆるコールコントロール機能とメニューオプションにアクセスします。

ホットキーの追加または削除の詳細については、「ホットキー」(18 ページ)を参照してください。



# CS1000 ディレクトリのユーザー プリファレンス設定

サーバーでは、個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、およびコーラーリストという CS 1000 ディレクトリ機能がサポートされます。


これらの機能にアクセスするには、コールコントロールで  (**ディレクトリ**) をクリックします。CS 1000 ディレクトリ機能に関する全般的な情報は、「CS 1000 ディレクトリ」(21 ページ) を参照してください。CS1000 ディレクトリの連絡先管理および CS 1000 ディレクトリからの通話については、「CS 1000 ディレクトリの連絡先管理」(39 ページ) を参照してください。

次のセクションでは、さまざまな CS 1000 ディレクトリ機能のユーザープリファレンスの設定方法について説明します。

- 「言語の設定」(81 ページ)
- 「日時の設定」(82 ページ)
- 「コールタイマーの有効化」(82 ページ)
- 「通話記録オプションの設定」(82 ページ)
- 「パスワード管理の使用」(85 ページ)

## 言語の設定

CS 1000 ディレクトリ機能で使用される言語を設定するには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。  
ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。
2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション]** > **[言語]** を選択します。
3. **[言語]** リストから、使用する言語 (例えば、**[日本語]** など) を選択します。


**注意:** この手順は、CS 1000 ディレクトリ機能で使用される言語にのみ影響します。コールコントロールで使用される言語を変更するには、「言語」(73 ページ) を参照してください。

## 日時の設定

---

CS 1000 システムでは、12 時間または 24 時間単位表記を使用して、複数の形式で日時を表示することができます。

日時の形式を選択するには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。

ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。

2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション] > [日時]** を選択します。

3. **[日時]** リストで、使用する形式をハイライト表示します。

ハイライト表示された日時のサンプルが、コールコントロールのディスプレイ領域に表示されます。


4. 使用する形式を選択します。

## コールタイマーの有効化

---

[コールタイマー] 電話オプションが有効になっている場合、IP Softphone 2050 は各コールの長さを自動的に測定して表示します。

コールタイマーを有効にするには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。

ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。

2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション] > [コールタイマー]** を選択します。

3. **[コールタイマー：オン]** を選択します。

## 通話記録オプションの設定

---

通話記録オプションを使用して、次のプリファレンスを設定します。


- すべてのコール/応答しなかったコールを記録
- 新規コールインジケータ
- 個人ディレクトリの優先表示

- 市外局番設定
- 名前表示フォーマット

## すべてのコール/応答しなかったコールの記録

コーラーリストを設定して、すべての着信コールまたは応答しなかった着信コールのみをログに記録できます。

すべてのコールまたは着信コールのみをログに記録するには、次の手順に従います。


1.  **[サービス]** をクリックします。  
ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。
2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション] > [通話記録プション]** を選択します。
3. **[着信]** を選択します。
4. **[通話記録モード]** を選択します。
5. 次のいずれかを選択します。
  - すべての通話を記録するには、**[コールをすべて記録]** を選択
  - 応答しなかった通話のみを記録するには、**[応答しなかったコールを記録]** を選択

「通話記録モード」のデフォルト設定は、「コールをすべて記録」です。

## 新規コールインジケータ

新規コールインジケータが有効になっている場合、IP Softphone 2050 では、新着コールを受信するとメッセージが表示されます。

新規コールインジケータの表示を有効または無効にするには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。  
ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。
2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション] > [通話記録プション]** を選択します。
3. **[着信]** を選択します。
4. **[新規コールインジケータ]** を選択します。

5. 次のいずれかを選択します。


- 機能を有効にするには、**【新規コールインジケータ：オン】** を選択
- 機能を無効にするには、**【新規コールインジケータ：オフ】** を選択

デフォルト設定は **【新規コールインジケータ：オン】** です。

## 個人ディレクトリの優先表示

個人ディレクトリの優先表示を使用して、相手先名の表示方法を設定します。  
[オフ] に設定した場合、相手先名はサーバー設定に従って表示されます。[オン] に設定した場合、相手先名は CS 1000 ディレクトリ内の名前(一致する名前がある場合)で表示されます。

個人ディレクトリの優先表示を有効または無効にするには、次の手順に従います。

1.  **【サービス】** をクリックします。

ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。

2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**【電話オプション】 > 【通話記録プシオン】** を選択します。

3. **【新規コールインジケータ】** を選択します。

4. 次のいずれかを選択します。

- 機能を有効にするには、**【個人ディレクトリの優先表示：オン】** を選択
- 機能を無効にするには、**【個人ディレクトリの優先表示：オフ】** を選択


デフォルト設定は、**【個人ディレクトリの優先表示：オフ】** です。

## 市外局番設定

市外局番設定を使用すると、着信電話番号を整理して表示することができます。着信電話番号の市外局番が、登録されている 3 つの市外局番の 1 つと一致する場合、IP Softphone 2050 は、着信電話番号を並べ替えて、通常とは逆の電話番号、市外局番の順で表示します。

この並べ替えは、コーラーリストにある電話番号の順序にも適用されます。

保存されている市外局番を設定するには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。  
ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。
2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション] > [通話記録オプション]** を選択します。
3. **[市外局番設定]** を選択します。
4. **[第 1 コード]**、**[第 2 コード]**、または **[第 3 コード]** を選択します。
5. 使用する市外局番を入力するか、既存の市外局番を編集します。


デフォルトでは、市外局番は設定されていません。

## 名前表示フォーマット

相手先の名前を次のいずれかの形式で表示するように IP Softphone 2050 を設定できます。

- 名、姓
- 姓、名

名前表示フォーマットを設定するには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。  
ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。
2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション] > [名前表示フォーマット]** を選択します。
3. **[姓、名]** または **[名、姓]** を選択します。

名前表示フォーマットのデフォルト設定は、名、姓の順です。

## パスワード管理の使用

パスワード管理には、CS 1000 ディレクトリ機能リストからアクセスできます。システム管理者がステーション制御パスワード (SCPW) をサーバーに定義すると、次のようなパスワード管理機能を設定できます。


- パスワード設定のオン/オフ
- パスワードの変更

パスワード設定が有効になっている場合、IP Softphone 2050 は、個人ディレクトリ、リダイヤルリスト、またはコーラーリストへのアクセスを許可する前に認証を要求します。これらのパスワード保護された機能のいずれかにアクセスしようとする、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

**注意:** デフォルトでは、パスワード設定は無効です。

## パスワード設定の有効化

パスワード設定のオン/オフは、次の手順に従います。


1. コールコントロールから、 (**ディレクトリ**) をクリックします。
2. **[パスワードの設定]** モードを選択します。

パスワードの設定が有効になっている場合、ユーザーはパスワードの入力を求められます。

3. 次のいずれかをクリックします。
  - 確認するには **[入力]** をクリック
  - パスワードを削除するには **[削除]** をクリック
  - パスワードをクリアするには **[クリア]** をクリック
  - 取り消して[ディレクトリ]リストに戻るには、**[キャンセル]** をクリック
4. **[入力]** をクリックした場合は、次のいずれかを選択します。
  - **[パスワードの設定を有効にします]**
  - **[パスワードの設定を無効にします]**
5. 次のいずれかをクリックします。
  - 選択を確定するには **[はい]** をクリック
  - [ディレクトリ] リストに戻るには、**[いいえ]** をクリック
6. **[はい]** を選択した場合は、**[完了]** をクリックしてパスワード設定を有効または無効にします。

## 個人パスワードの変更

パスワードを変更するには、次の手順に従います。

1.  **[サービス]** をクリックします。  
ディスプレイ領域にオプションのリストが表示されます。
2. ナビゲーションキーまたは PC のキーボードの上下矢印キーを使用して、**[電話オプション]** を選択します。  
パスワードを求めるプロンプトが表示されます。
3. パスワードを入力します。
4. **[新しいパスワード]** を選択します。
5. 次のいずれかをクリックします。
  - 新しいパスワードを選択するには、**[選択]** をクリック
  - 前のメニューに戻るには、**[削除]** をクリック
  - パスワードをクリアするには **[クリア]** をクリック
  - 終了するには、**[キャンセル]** をクリック

**注意：** **[選択]** をクリックした場合は、新しいパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
6. 新しいパスワードを入力し、**[選択]** をクリックします。  
新しいパスワードの確認を求めるプロンプトが表示されます。
7. 次のいずれかをクリックします。
  - 新しいパスワードを選択するには、**[選択]** をクリック
  - 前のメニューに戻るには、**[削除]** をクリック
  - パスワードをクリアするには **[クリア]** をクリック
  - 終了するには、**[キャンセル]** をクリック

**注意：** **[選択]** をクリックした場合は、パスワードが変更されます。

1 時間以内に 3 回連続して間違ったパスワードを試した場合は、アプリケーションがロックされ、パスワード保護されているすべての機能が 1 時間使用できなくなります。電話機には「アクセスがブロックされました」と表示されます。

バーチャルオフィスが有効になっている場合は、バーチャルオフィスもロックされます。間違ったパスワードを試したことによりバーチャルオフィスにアクセスできない場合は、その他のパスワード保護された機能へのアクセスもロックされます。

パスワードを忘れた場合、またはシステムがロックされた場合は、システム管理者がいつでもリセットしてアクセスロックを解除できます。



# IP Softphone 2050 の トラブルシューティング

以下のセクションでは、さまざまなトラブルシューティングの問題と推奨される対応措置について説明します。

- 「接続の問題」(89 ページ)
- 「オーディオの問題」(93 ページ)
- 「リセット条件」(96 ページ)
- 「USB ヘッドセットの問題」(96 ページ)
- 「ディレクトリの問題」(98 ページ)

## 接続の問題

---

### Communication Server にアクセスできない

#### 症状

次のいずれかのメッセージが表示されます。

- 接続しています ...
- サーバーに接続できません xx 秒以内に再接続します。
- ネットワークで 802.1 QoS がサポートされていません。

#### 説明

これらのメッセージは、Communication Server との接続を確立できないことを示します。IP Softphone 2050 は、再接続を試行した後で、ランダムな再試行時刻を設定します。このプロセスは、IP Softphone 2050 が正常に接続するまで繰り返されます。

「接続しています ...」メッセージは、次の条件下でのみ短時間表示されます。

- Communication Server が稼働し、接続可能な場合
- IP Softphone 2050 が適切な IP アドレスと通信している場合

「サーバーに接続できません」メッセージは、IP Softphone 2050 が Communication Server に接続するときに問題が発生した場合に表示されます。

### 考えられる原因

- ネットワークが停止しています。
- コンピュータがネットワークに接続されていません。
- 設定ユーティリティの Communication Server 設定が無効です。
- DHCP 設定の Communication Server 設定が無効です。
- Communication Server が停止しています。

### 処置

- ネットワーク上の別のステーションに Ping します。
- Communication Server に Ping します。
- [設定] ウィンドウの [サーバー] ダイアログボックスを使用して、Communication Server の IP アドレスとポート番号を確認します (詳細は、「サーバー」(61 ページ)を参照)。
- Communication Server の設定が正しいことを確認します。ポートが使用可能であること、ライセンスが使用可能であること、およびセキュリティが適切であることを確認します。

## 接続が再初期化されている

### 症状

「接続を確立しました。再初期化しています...」というメッセージが表示されます。

### 説明

このメッセージは、IP Softphone 2050 が接続を確立し、Communication Server に接続の再開要求を送信した後に表示されます。Communication Server はこの要求に応答します。一部の Communication Server は、IP Softphone 2050 をさまざまなサブコンポーネントと通信させるため、正常な起動中にこのメッセージが続けて 2～3 回表示されます。

**注意:** セットアップが正常に行われた場合、「接続を確立しました。再初期化しています ...」メッセージは短時間表示され、接続後に消えます。

### 考えられる原因

- 「接続を確立しました。再初期化しています ...」メッセージは、Communication Server のプログラミングエラーを示しています。

### 処置

しばらく待ちます。正常動作時には、接続に成功した後でメッセージが消えます。メッセージが表示されたままの場合は、Communication Server のプログラミングが正しいことを確認してください。

## 認証に失敗した

### 症状

「認証できません」というメッセージが表示されます。

### 説明

IP Softphone 2050 が Communication Server の使用を許可されていません。

### 考えられる原因

- システム管理者が IP Softphone 2050 を認証していません。
- [設定] ウィンドウ( [ハードウェア ID] ダイアログボックス)のハードウェア ID が、Communication Server に対してプロビジョニングされているハードウェア ID と一致しません。

### 処置

システム管理者に連絡してください。

## DHCP サーバーから Communication Server のパラメータを取得できない

### 症状

「DHCP サーバーを使用できません」というメッセージが表示されます。

### 説明

DHCP サーバーとの接続を確立できません。

### 考えられる原因

- ネットワークが停止しています。
- DHCP サーバーの設定エラーです。

### 処置

システム管理者に連絡してください。

## サービスが拒否される

### 症状

「サービスが拒否されました。理由：XXXX」というメッセージが表示されます。

### 説明

Communication Server の使用を許可されていません。

### 考えられる原因

- [ハードウェア ID] ダイアログボックスで指定されているハードウェア ID が無効です(「ハードウェア ID」(66 ページ)を参照)。
- Communication Server 構成が無効です。

### 処置

- Communication Server プログラミングが正しいことを確認します。
- システム管理者に連絡してください。

## オーディオの問題

### 基本的なオーディオ操作

USB アダプタとヘッドセットの物理的な接続、また Windows オーディオ設定が適切であることを確認するには、次の手順に従います。

1. オーディオメッセージを録音します。
2. USB ヘッドセットを使用してメッセージを再生します。

### 一方向オーディオ

一方向のみのオーディオで問題が発生する場合は、次の操作を行います。

- システム管理者が Communication Server にハンズフリーオプションをプログラミングしていることを確認します。
- ミュートボタンが無効になっていることを確認します。ミュートが有効な場合は、コールコントロールのミュートボタンが赤く表示されます。
- サーバーでネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスを使用している場合は、その設定が正しいことを確認します。一方向のみのオーディオの問題は、不正な NAT 設定が原因で、IP Softphone 2050 が間違った IP アドレスへの接続を試行している場合に発生することがあります。

### 割れまたは途切れのある音声

割れまたは途切れのある音声は、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- 低レベルのオーディオバッファリング
- Windows アニメーション効果
- ほかの実行中のアプリケーション

### オーディオバッファリング

「オーディオ」ダイアログボックスは、オーディオハードウェアと IP Softphone 2050 の間のバッファのレベルを調整するときに使用します。詳細は、「オーディオ」(64 ページ)を参照してください。

「品質」スライダは、遅延の量を増加または減少させるときに使用します。**【短遅延】**にすると、バッファは高速になりますが、オーディオの品質は低下します。**【高品質】**にすると、オーディオの品質は向上しますが、バッファは低速になります。

音声に途切れや割れが生じている場合は、オーディオの【品質】スライダを【高品質】の方向に動かしてください。

### Windows アニメーション効果

Windows オペレーティングシステムは、アプリケーションの最小化や最大化などの低レベルの Windows 操作を実行するときに、非常に高いプロセスおよびスレッド優先順位を使用します。このため、IP Softphone 2050 オーディオストリームが短時間中断することがあります。

このような中断の問題を低減するには、メニューとヒントに対する Windows アニメーション効果をオフにします。

Windows アニメーション効果をオフにするには、次の手順に従います。

1. 【スタート】 > 【コントロール パネル】 > 【画面】 を選択します。
2. 【効果】 タブ (Windows XP の場合は 【デザイン】 タブの 【効果】 ボタン) を選択します。
3. 【次のアニメーション効果をメニューとヒントに使用する】 をオフにします。

### その他のアプリケーション

コンピュータで実行されているその他のアプリケーション、特に CPU を集中的に使用するアプリケーション、またはパケットのインターセプトや遅延を生じさせるアプリケーション (ファイアウォールなど) は、オーディオが中断する原因となることがあります。

1 台の PC に複数の Ethernet インターフェイスがあると、相互に競合することがあります。例えば、IP Softphone 2050 では、Xircom RealPort Cardbus Ethernet 10/100+Modem 56 PC カード (PCMCIA) が挿入されているドッキングされたノートブックを使用している場合に、オーディオが一時的に中断することがあります。この PC カードの場合は、問題が Xircom ドライバの特定のバージョンに関連しています。このドライバは、アクティブでないときでも CPU サイクルを消費するため、IP Softphone 2050 オーディオが途切れます。

この例の解決方法は、次のとおりです。

- Xircom ドライバをアップグレードします。
- ノートブックがドッキングされているときは PC カードを取りはずします。

Xircom ドライバをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. 新しい PC カードドライバを Xircom Web サイトからダウンロードしてインストールします。
2. Xircom が提供しているインストール指示に従います。

**注意：**Windows 2000 では管理者権限が必要です。

## ヘッドセットからの Windows サウンドの再生

### 説明

コンピュータのスピーカではなくヘッドセットからの Windows サウンドの再生は、IP Softphone 2050 オーディオに干渉します。

### 処置

Windows オペレーティングシステムは、新しいサウンドデバイスをデフォルトのデバイスに設定することがあります。

Windows サウンドをコンピュータのスピーカから再生するように設定するには、次の手順に従います。

1. **[スタート] > [コントロール パネル] > [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]** を選択します。
2. **[サウンドとオーディオ デバイス]** を選択します。
3. **[オーディオ]** を選択します。
4. **[音の再生] セクションの [既定のデバイス]** リストから、コンピュータのサウンドカードを選択します。

**注意：**再生にヘッドセットアダプタを使用しない場合は、**[音の再生] セクションの [既定のデバイス]** リストから別のデバイスを選択します。

## ネットワークパフォーマンスによるオーディオの詳細設定の問題

ネットワークパフォーマンスによってオーディオの問題が発生する場合は、IP Softphone 2050 の [設定] ウィンドウの [オーディオの詳細設定] ダイアログボックスを使用して、Communication Server のオーディオ値を上書きします。

オーディオの詳細設定の詳細は、「オーディオの詳細設定」(67 ページ)を参照してください。

## リセット条件

---

IP Softphone 2050 は、次の場合にリセットされます。

- Communication Server が原因で、IP Softphone 2050 がハードリセットを実行する場合
- IP Softphone 2050 スキンを変更した場合
- ファイアウォールアプリケーションによってパケットのインターセプトまたは遅延が生じたため、ウォッチドッグタイマが失効して IP Softphone 2050 がリセットされた場合

**注意：**IP Softphone 2050 と同じコンピュータでファイアウォールアプリケーションを使用する場合は注意してください。

- サーバーで通信の遅延または喪失が過剰に発生した場合

## USB ヘッドセットの問題

---

### ヘッドセットが機能しない

ヘッドセットの問題が発生した場合は、次の操作を表示されている順に試してください。

1. サポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、「システム要件」(24 ページ)を参照してください。オペレーティングシステムを確認するには、次の手順に従います。
  - a. **【スタート】** を選択します。
  - b. **【マイ コンピュータ】** を右クリックします。
  - c. **【プロパティ】** を選択します。  
[システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。
  - d. **【全般】** を選択します。  
[全般] タブに、システム情報、登録情報、およびコンピュータ情報が表示されます。
2. [デバイス マネージャ] に **【USB (Universal Serial Bus) コントローラ】** が表示されていることを確認します。[デバイス マネージャ] を開くには、次の手順に従います。



- a. **【スタート】** を選択します。
  - b. **【マイ コンピュータ】** を右クリックします。
  - c. **【プロパティ】** を選択します。  
[システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。
  - d. **【ハードウェア】** を選択します。  
[ハードウェア] ダイアログタブが表示されます。
  - e. **【デバイス マネージャ】** をクリックします。
3. [デバイス マネージャ] に **【USB (Universal Serial Bus) コントローラ】** が表示されていない場合は、次の手順に従います。
    - コンピュータのセットアップメニューで USB が有効になっていることを確認します。
    - BIOS アップグレードを確認します。
    - コンピュータの供給元に問い合わせます。
  4. [デバイス マネージャ] の **【サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ】** の下に、**【USB オーディオ デバイス】** が表示されていることを確認します。[デバイス マネージャ] を開くには、手順 2 を参照してください。
  5. [デバイス マネージャ] の **【ヒューマン インターフェイス デバイス】** の下に、**【HID 準拠デバイス】** および **【USB ヒューマン インターフェイス デバイス】** が表示されていることを確認します。[デバイス マネージャ] を開くには、手順 2 を参照してください。
  6. 手順 4 と 5 で [デバイス マネージャ] にいずれのデバイスも表示されない場合、また、手順 1 と 2 の条件が正しい場合は、Windows ヘルプで USB のトラブルシューティングに関するセクションを調べてください。
  7. Softphone のマイクとスピーカとして **【USB オーディオ デバイス】** が選択されていることを確認します。

## USB ヘッドセットアダプタ機能がグレー表示される

### 症状

IP Softphone 2050 の [設定] ウィンドウの [USB ヘッドセット] ダイアログボックスで、すべての機能がグレー表示されます。

### 説明

IP Softphone 2050 が、サポートされている Nortel アダプタとしてアダプタを認識していないか、アダプタが 2.0 より前のものです。サポートされているアダプタには、Nortel 拡張 USB アダプタ (デスクトップ) または Nortel モバイル USB アダプタ (モバイル) があります。

## 考えられる原因

- USB ヘッドセットアダプタが、[USB ヘッドセット] ダイアログボックスに表示されている機能をサポートしていません。
- USB ヘッドセットアダプタが正しく列挙されません。

## 処置

列挙に問題があると思われる場合は、次の手順に従います。

1. USB ケーブルを USB ヘッドセットアダプタからはずします。
2. 1 分間待ちます。
3. USB ケーブルを USB ヘッドセットアダプタに接続します。これにより、USB ヘッドセットアダプタが強制的に再列挙されます。

## ヘッドセットからオーディオが聞こえない

ヘッドセットのメーカーが USB アダプタのメーカーと一致していることを確認します。

すべてのジャックとプラグがゆるんでいないことを確認します。

## サウンドがまだコンピュータのスピーカから聞こえる

### 説明

IP Softphone 2050 設定が、すべての通話音声ヘッドセットに送信していません。

### 処置

すべての通話音声ヘッドセットに送信するには、**[サウンドデバイス]** ダイアログボックスで、ヘッドセットマイクとヘッドセットスピーカの両方として **[USB オーディオデバイス]** を選択します（「サウンドデバイス」（65 ページ）を参照）。

## ディレクトリの問題

---

リダイヤルリストとコーラーリストを使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

- Communication Server がこれらの機能をサポートしていること。

- システム管理者が、適切なサービスクラスを有効にしていること。

リダイヤルリストまたはコーラーリストにアクセスできない場合は、システム管理者に問い合わせてください。



# 索引

## C

- CS 1000 ディレクトリ 21, 39
  - 言語 81
  - コールタイマー 82
  - 個人ディレクトリの優先表示 84
  - 市外局番設定 84
  - 新規コールインジケータ 83
  - 名前表示 85
  - パスワード管理 85
- CS 1000 ディレクトリ日時 82

## I

- i2050.exe アプリケーション 12

## L

- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) 34
- Local Area Network (LAN) 9

## M

- MAC アドレス 66

## N

- NetEQ(グローバル IP サウンド) 67
- Nortel USB オーディオキット 25, 45

## O

- Outlook ディレクトリ 35

## U

- USB ヘッドセットアダプタ 47

## V

- Voice over IP (VoIP) 9

## W

- Wide Area Network (WAN) 9
- Windows のアドレス帳 (WAB)  
ディレクトリ 35

## あ

- アクティブコール 76
- アプリケーションサーバー管理 23

## い

- インジケータ 79

## お

- 応答 17
- 応答ボタン 46

## か

- 外部 LED ランプ 75
- 外部ディレクトリ 34
- 拡張 18

## き

- キー メニュー 55

## こ

コーラー ID 47  
コーラーリスト 22  
コールコントロール  
1140 スキン 14, 15  
個人ディレクトリ 21, 41  
コピー 16

## さ

サービス 18  
最大化ボタン 45  
最大許容値 68  
サポート対象オペレーティング  
システム 24

## し

システムトレイ 19  
システム要件 24  
ジッタ 68  
終了 16  
受信トレイ/メッセージ 18  
手動制御 75

## す

スピーカ 18  
スマート機能 48  
スマート機能ボタン 45

## せ

設定 57, 58  
USB ヘッドセット 74  
オーディオ 64  
オーディオの詳細設定 67

キータイプ 72  
機能 63  
言語 73  
個人通話記録 73  
サーバー 61  
サウンド 70  
サウンドデバイス 65  
スキン 63  
テキストの置換 71  
バージョン情報 73  
ハードウェア ID 66  
プロファイル 59  
ホットキー 70  
マクロ 64  
ランプのサウンド 71  
リスナー IP 69

## そ

早期パケット再同期と  
遅延パケット再同期 68  
送信トレイ/シフト 18  
ソフトキー 16

## た

ダイヤルパッド 17

## て

ディスプレイ 78  
ディレクトリ 18

## に

日時 79

## は

パスワード管理 85  
バックライト 46, 77

## ひ

表示 メニュー 56

## ふ

ファイル メニュー 54  
プライマリディスプレイ 16

## へ

ヘッドセット切断 76  
ヘルプ メニュー 56  
編集 メニュー 55

## ほ

方向矢印 17  
ホットキー 18  
保留 17  
ボリューム 17  
ボリュームボタン 46

## ま

マクロ 52

## み

ミュートボタン 46  
ミュートライト 46

## め

メッセージ待機 76  
メッセージ待機ランプ 45  
メニューコマンド 54

## ゆ

優先順位 76  
ユーザー補助アクセス  
インターフェイス 78

## ら

ライン 43  
ラインキー 17  
ラインと機能 79

## り

リダイヤルリスト 22, 42  
リリース 17  
リリースボタン 46

## ろ

ローカルディレクトリ 20, 27







Nortel Communication Server 1000

# IP Softphone 2050

## ユーザーガイド

Copyright © 2006 Nortel Networks. All rights reserved.

本書の内容は予告なしに変更されることがあります。本書の記述、構成、技術データ、各種推奨事項は、正確かつ信頼できるものですが、明示または黙示に関わらずいかなる保証もいたしません。本書に記載される製品の使用に関しては、ユーザーが全責任を負うものとします。本書の内容は、すべて Nortel Networks に帰属します。

Nortel、Nortel (ロゴ)、地球をデザインしたマーク、SL-1、Meridian 1、Succession は Nortel Networks の商標です。

発行番号 : NN-10300-054-JP

文書リリース番号 : 標準版 3.00

発行日 : 2006 年 3 月

Produced in Canada



インターネットアドレス  
<http://www.nortel.com>